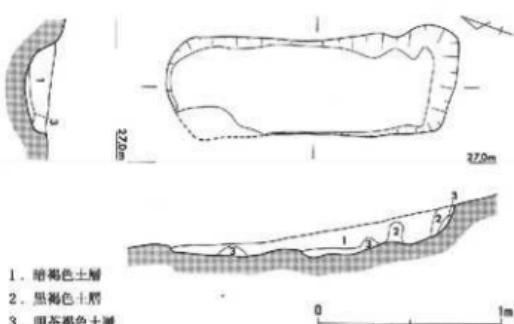
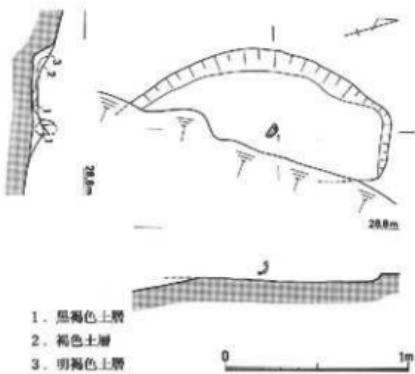


珠状つまみがつく坏蓋で、内面に非常に短いかえりを有している。約2/3が現存する。3は頂部の尖った宝珠状つまみを有する坏蓋の破片である。4は高台付环で、体部口縁を欠いている。底部は平底ではなく、体部から底部にかけての断面は大



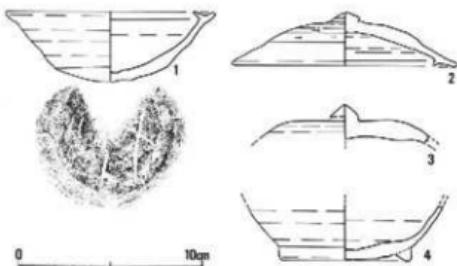
第33図 1区SK 0 2 実測図 (1 : 30)



第34図 1区SK 0 3 実測図 (1 : 30)

きく弓なりになるのが特徴で、高台は低く肥厚したものである。

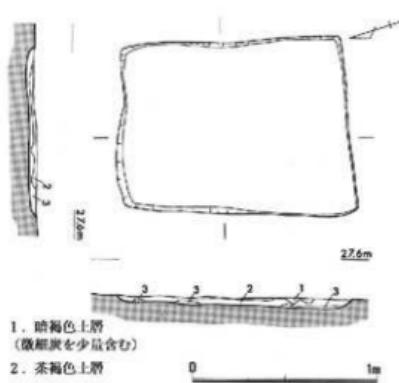
SK 0 4 (第36図、図版25) 調査区の北東側、SK 0 3に近い緩斜面で検出した、長辺1.2m、短辺0.9mを測る方形の土坑である。長辺を軸とすると、北々東の向きにある。遺構検出面からの深さは最大で5cmと極めて浅い。底面は平坦である。出土遺物はみられなかった。他の土坑群とは平面プランが異なり、性格は不明である。



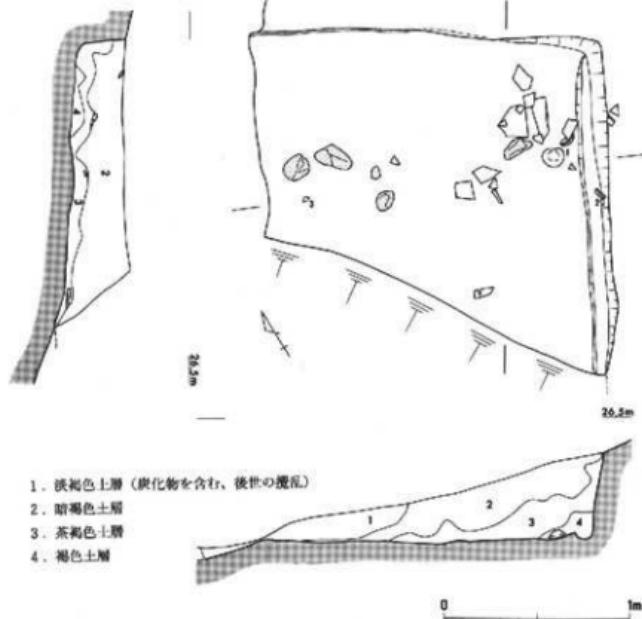
第35図 1区SK 0 3 及び周辺出土遺物実測図 (1 : 3)

SK 05 (第37図、図版26) 採土工事後のカット面に遺構断面が認められたので、期間中に併せて調査した土坑である。当初設定した調査区の外であったが、他の土坑との関連性がみとめられ、位置的にも近かったので、1区の遺構として扱った。遺構はほぼ直角に隣り合う2辺が残っていることから、方形状を呈する土坑とみられる。南東側の1辺は長さ1.8mまで残存し、壁面は直立気味に立ち上がる。深さは検出面から床面まで45cmであるが、この壁面には幅10cm、深さ4cmの溝が作る。この南東辺を土坑の基軸とすると、北東から南西方に向むく。北東側の1辺は長さ1.8mで、壁面はほぼ直立する。底面は平坦で、ピットなどは認められなかった。出土遺物には、須恵器片と甕片があり、うち

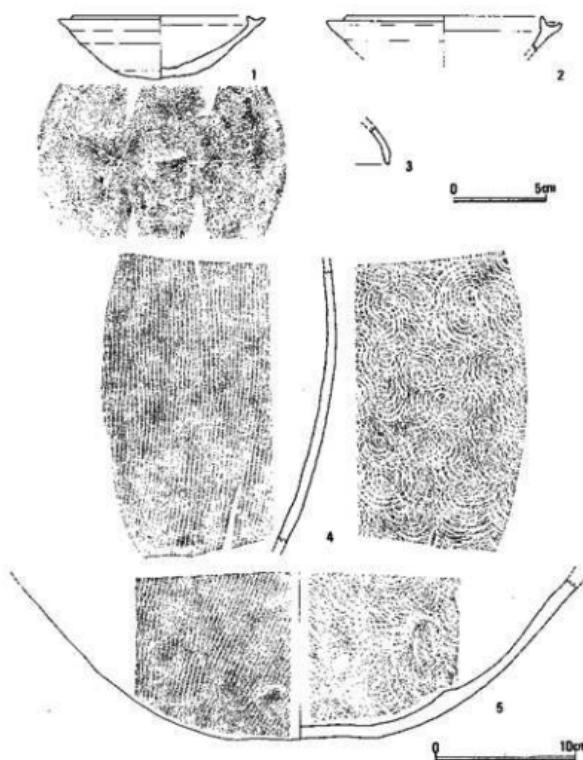
1点(1)が東側コーナーよりの底面直上で外面向上した状態で検出された以



第36図 1区SK 04実測図 (1:30)



第37図 1区SK 05実測図 (1:30)



外は、覆土中（2層・3層）から出土した。同出土遺物（第38図、図版29）1は立ち上がりが非常に短く内傾する杯身のほぼ完形品で、底部外面には直線5本で構成された、左右非対称のヘラ記号が認められる。外面全体に自然釉がかかる。2は同じく立ち上がりが低く内傾する杯身の小片である。3は杯蓋の小片とみられ、口縁は単調に終わる。4・5は甕の破片で同一固体のものと思われる。約1/3程度が残存し、4が胴部、5が底部である。

第38図 1区SX 0.5出土遺物実測図（1～3は1：3、4～5は1：4）

### 3. 1区出土のその他の遺物

1区からは遺構に伴わないが、多くの遺物が出土した。遺物には須恵器・土師器・石器・鐵刀片・陶磁器がある。このうち大半は須恵器であり、ほとんど破片で検出された。出土地点はほぼ全域にわたるが、特に多かったのはSX 0.1の周辺である。これらのなかには本来この古墳の副葬品であったものが含まれるものと思われる。

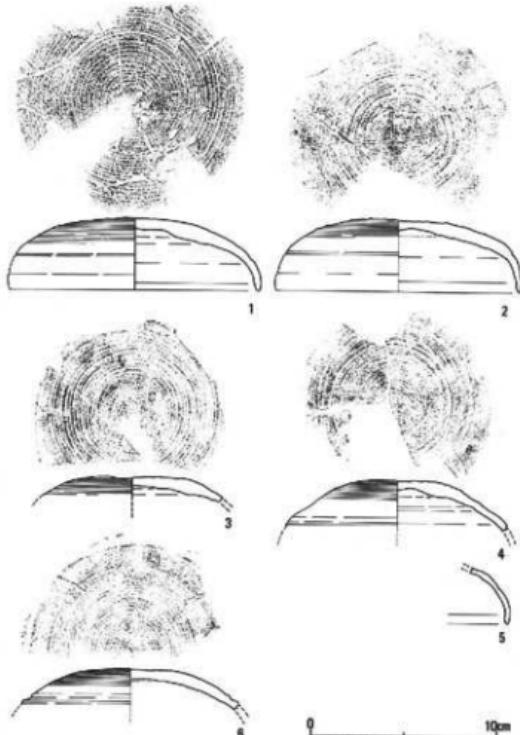
**須恵器**・**高環類**（第39～43図、図版30～36）須恵器には器種として有蓋高環が少くないようである。しかし、いわゆる蓋環と有蓋高環の蓋とを明確に区分することが困難であるため、ここでは便宜上环・高环を一括して記述することにした。なお、これらのうちで形態・胎土・焼成・色調な

どから高杯としてセット・接合関係の可能性があるものを挙げると、第40図の1+第42図の6、第40図の11+第42図の10、第39図の1~5+第42図の7~9+第43図の14·15、第42図の12+第43図の9、第42図の5+第43図の8などが考えられる。

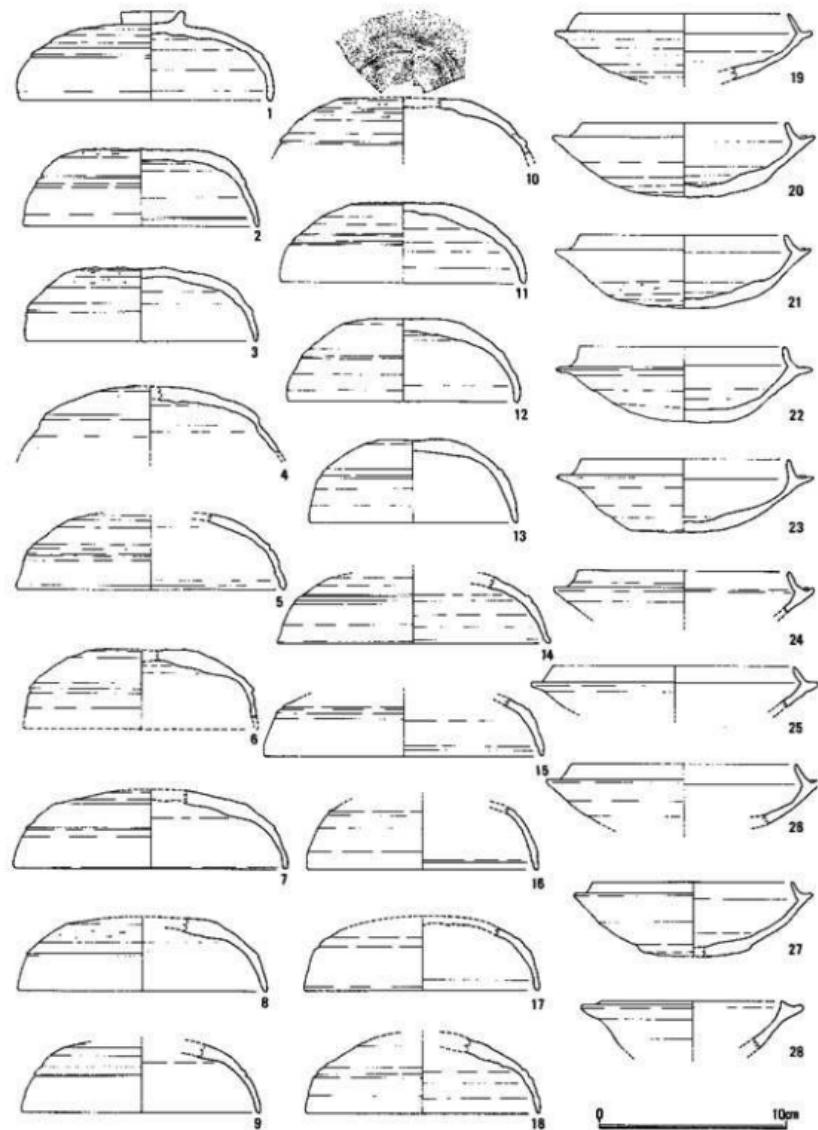
第39図は、杯蓋のなかでも天井部外面にカキ目ないしはカキ目状痕が施されているものを取り上げた。いずれも有蓋高杯の杯部蓋と考えられる。このうち1~5はおおむね天井部と口縁部とが1条の浅い沈線によって区分されるタイプのもので、口縁端部内面にも細くて浅い線が施されている。天井部外面には板状工具によるとみられるカキ目状の回転ナデが意識的に施され、しかも共通してそのほぼ中央に「×」状のヘラ記号を作っている。

6は天井部約半分ほどの破片であるが、1~4とは少し様相を異にし、天井部外面に丁寧にカキ目が施される。しかし、ヘラ記号は認められない。天井部と口縁部との境には上下に浅い沈線が引かれ、にぶい稜をなしている。

第40図は、杯蓋で口縁部内面に返りの付かない段階のもの(1~18)と、杯身で受部に立ち上がりのつくもの(19~28)を取り上げた。1は頂部に輪状つまみを有するもので、有蓋高杯の蓋とみられる。天井部と口縁部との間に丸味のある稜がつき、口縁端部の内面にはかすかな段が認められる。杯蓋2~18は総じて天井部と口縁部とを分ける稜が曖昧になる傾向のものが多く、口縁端部内面には段を付けないか、あってもかすかな段または沈線でもってアクセントをつける程度である。調整の点でも天井部の回転ヘラケズリがなくなる傾向にあるものが多い。10の天井部外面にはヘラ記号が認められる。杯身19~28は総じて受部の立ち上がりが低く内傾するもので、外面の回転ヘラケズリもさほど多くない。27は立ち上がりがさらに短くなり、底部には回転ヘラケズリが認められ



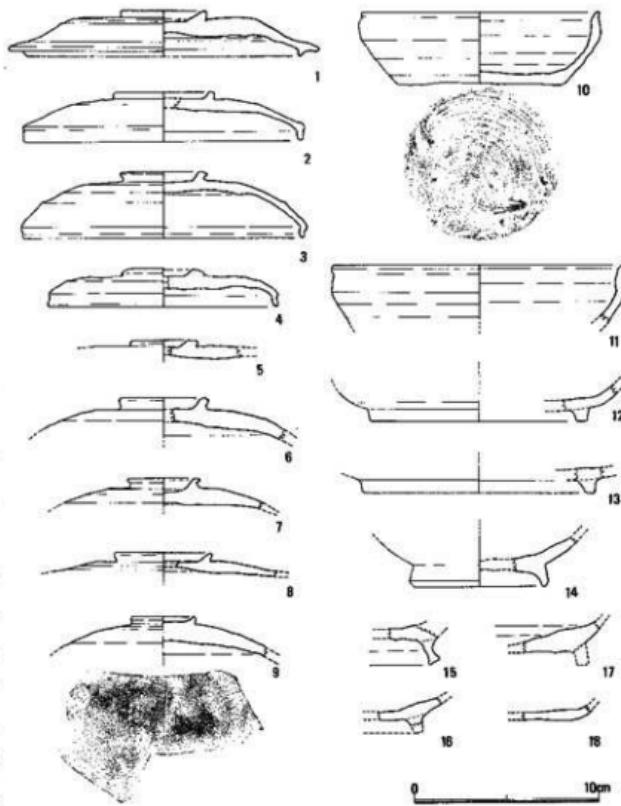
第39図 1区その他の出土遺物実測図(1)(1:3)



第40図 1区その他の出土遺物実測図（2）(1 : 3)

ない。28は立ち上がりが極端に短く、あるいは蓋の可能性もある。

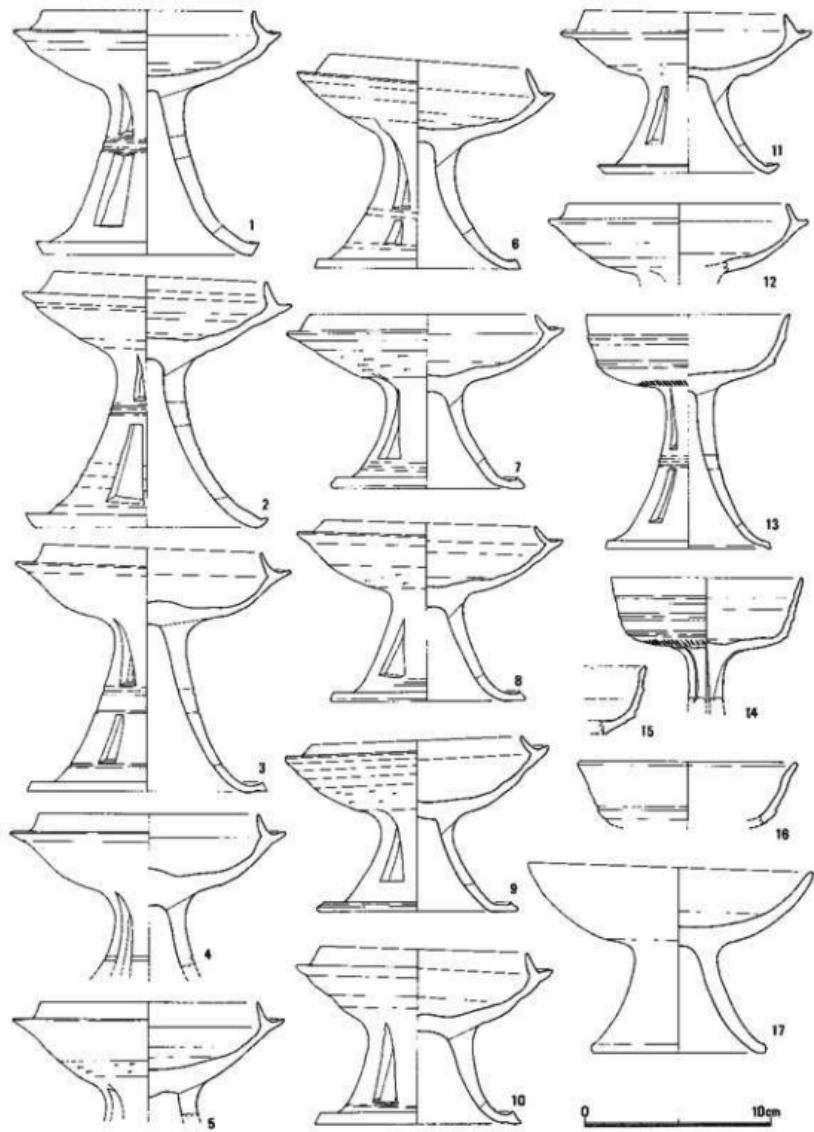
第41図は、环蓋の頂部に輪状つまみを有するもの（1～9）と、环で糸きり底または高台付のもの（10～18）を取り上げた。輪状つまみのつく环蓋のうち、ほぼ全形が分かるものには、1のように内面に返りが付くものと、2～4のように端部を折り返しただけのものとの2



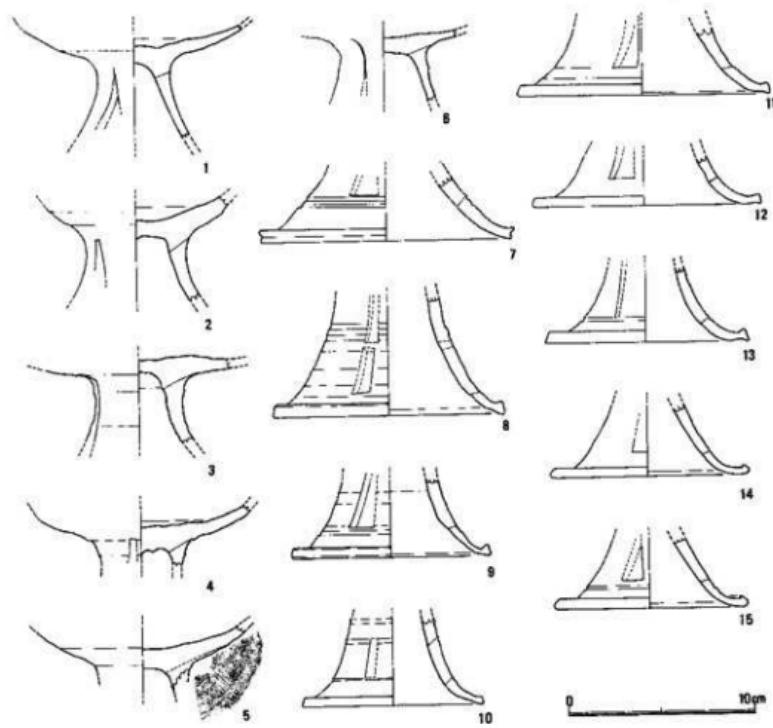
第41図 1区その他の出土遺物実測図（3）（1：3）

種類がある。9の内面にはヘラ記号が認められる。环10は口唇部を外反させる特徴があり、底部には回転糸きり痕をのこす。底部片には12～17のように高台の付くものと、18のように付かないものがある。18は糸きり痕が認められる。17はあるいは春の底部かもしれない。

第42図は、高环のほぼ全形が知られるものを中心取り上げた。有蓋のもの（1～12）と、無蓋のもの（13～17）があり、有蓋のものにはさらに脚部がやや長めのもの（1～4）と、短めのもの（6～11）がある。前者は3方向の2段透かしを入れ、その間に2条の浅い沈線を巡らしている。後者は3方向の1段透かしを入れるが、これには1条または2条の浅い沈線を伴うものとそうでないものがある。16は基本的に3方向の1段透かしのものであるが、1方向に限って2段の透かしを



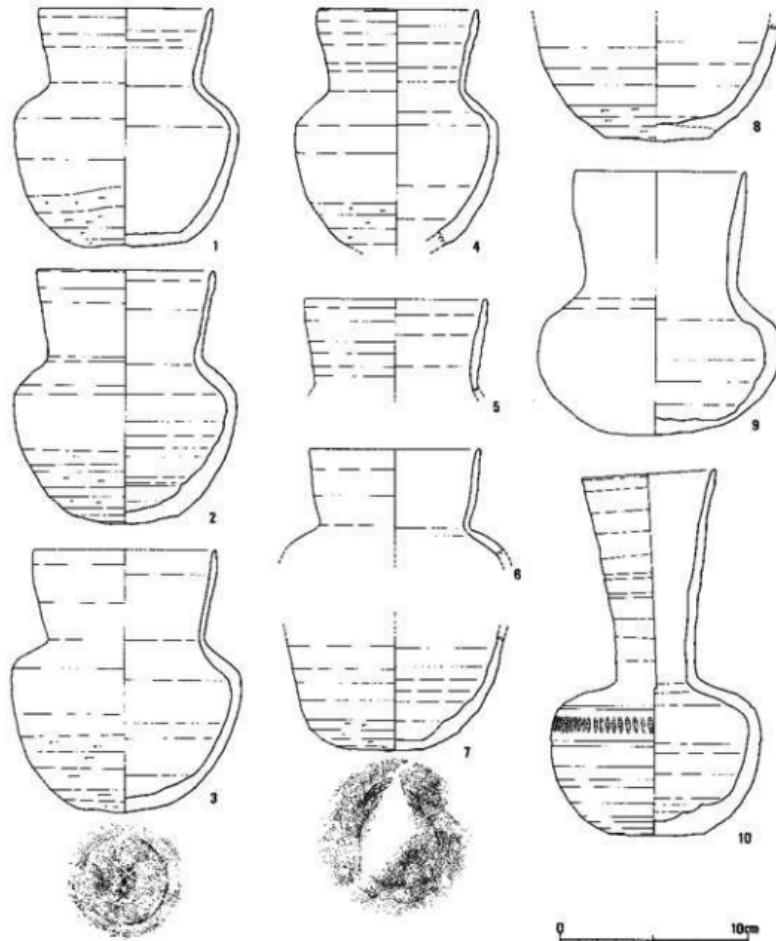
第42図 1区その他の出土遺物実測図(4)(1:3)



第43図 1区その他の出土遺物実測図(5)(1:3)

施している。環部の受部は、全体的に立ち上がりが内傾するものの、その度合いが強いもの（1・2など）と弱いもの（7・8など）が認められる。脚端部は、平面面を比較的単純に外傾させたもの（1・2）や、内傾させたもの（3・6～10）があり、後者はさらに上縁の破線をはっきりさせたもの（7～9）と、内面側にアクセントをつけたもの（3・10）など、さまざまである。無蓋のものでは、13～15は环の体部外面に低い突帯を巡らすとともに、底部外面には櫛状工具による連續刺突文を施している。13は脚が長く3方向2段透かしを有するものである。16は环の体部と底部がアクセントによって分かれているが、17はその界線が全くなくなり、脚部も単純に終わっている。

第43図は、高环の接合部分から脚部が残存するものを取り上げた。1～6は、2方向透かしの3以外はいずれも3方向の透かしを有している。5の外面にはヘラによる刻みが透かしの切り込みとは別に認められる。7～15も3方向の透かしを有するものと考えられるが、これには浅い沈線が伴うもの（7～10・13・15）とそうでないもの（11・12・13）がある。脚端部も、第42図で触れたと

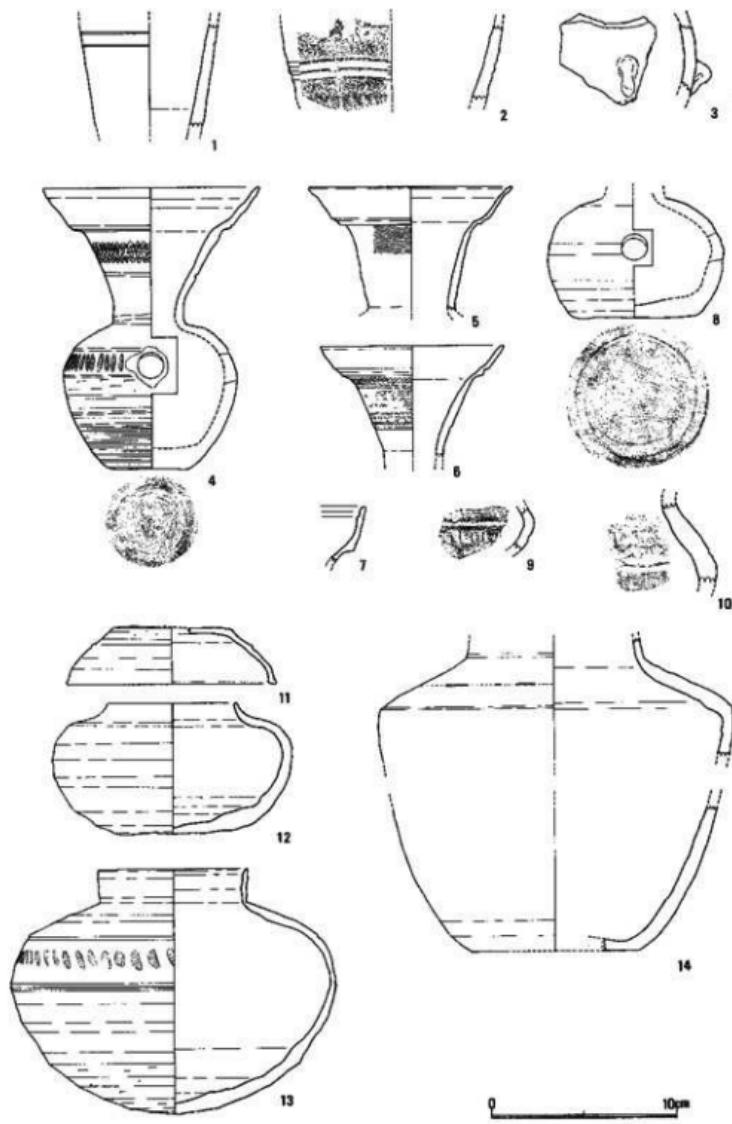


第44図 1区その他の出土遺物実測図 (6) (1 : 3)

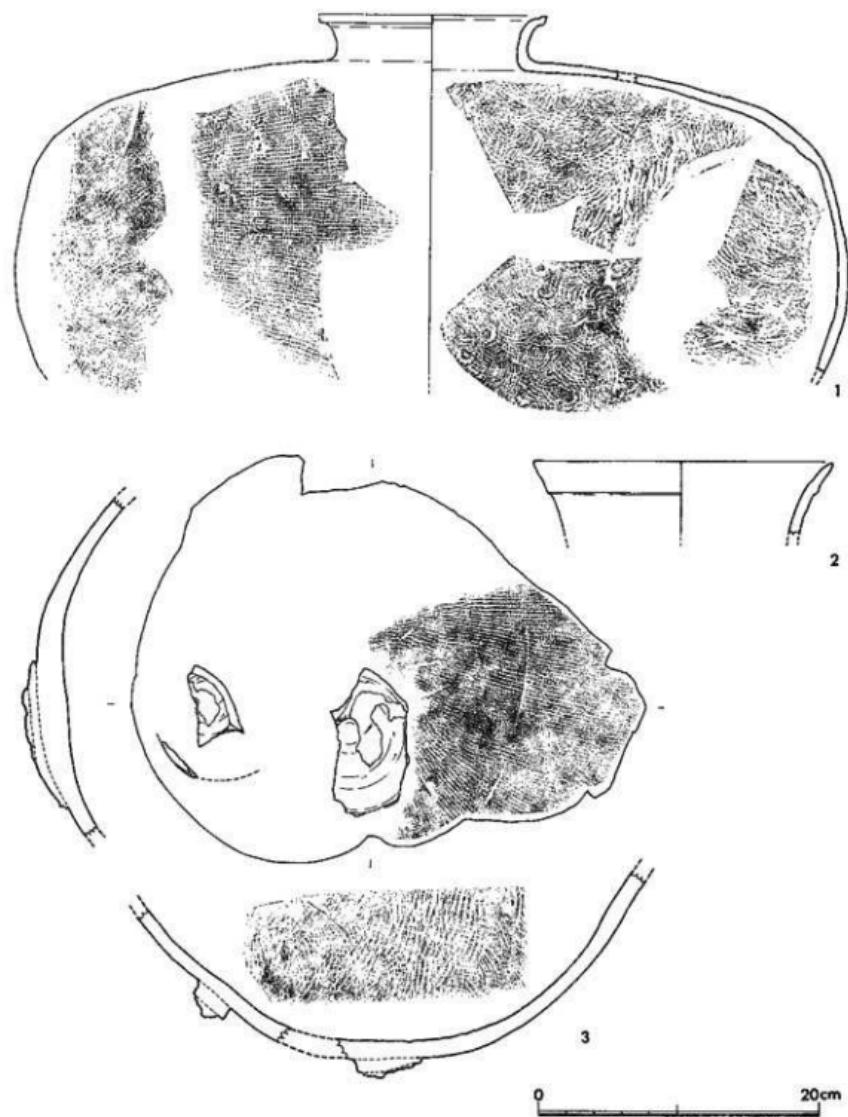
同じように、いくつかのパターンが認められる。

須恵器壺・甕・瓶類 (第44~47図、図版37~39、ただし9は土師質。)

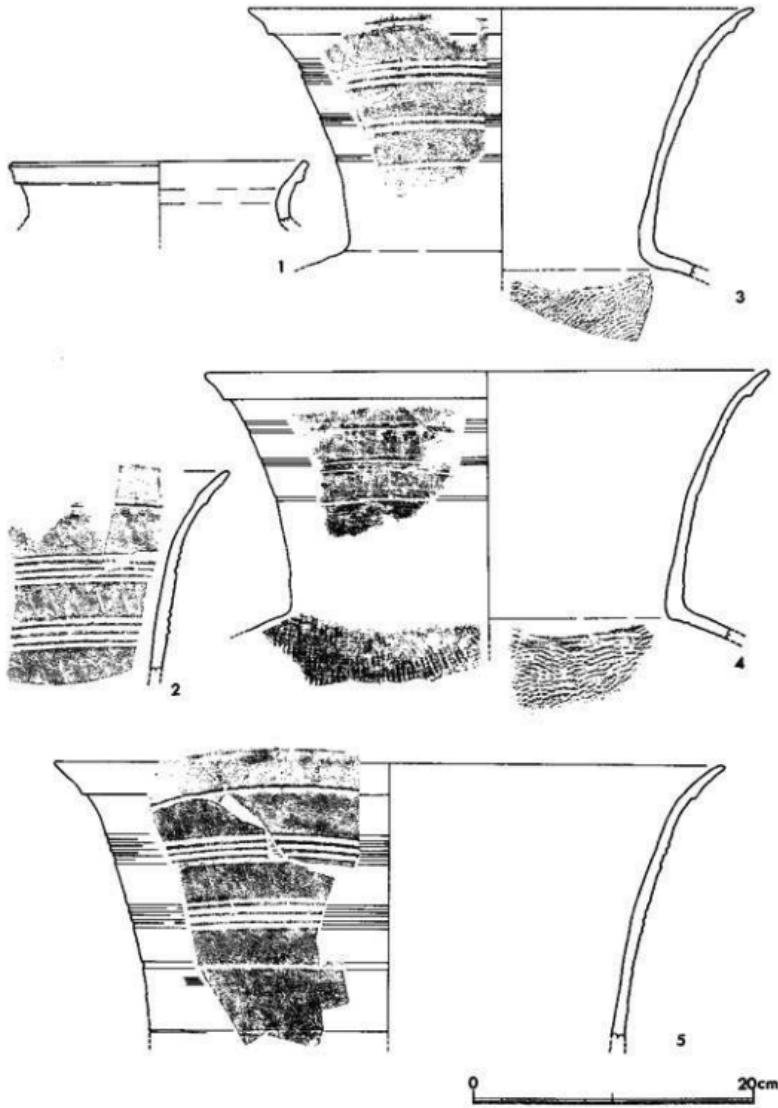
第44図は、直口壺および長頸壺に類するものを集めたものである。1~6は直口壺とわかるもので、3の底部外面には「×」状のヘラ記号が認められる。7・8は胴部下方の破片のため、直口壺か長頸壺かのどちらかを特定することはできない。7の底部外面には「×」状のヘラ記号が認めら



第45図 1区その他の出土遺物実測図 (7) (1 : 3)



第46図 1区その他の出土遺物実測図 (8) (1 : 4)

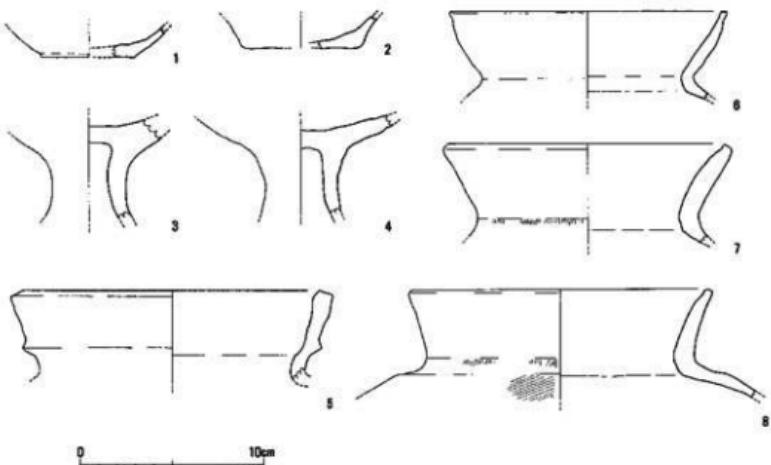


第47図 1区その他の出土遺物実測図 (9) (1 : 4)

れる。9は土師質の壺で、口縁部の一部を欠損する。形態的には直口壺といえようが、須恵器1～6にくらべ、口縁部が長めで胴部もやや偏平である。10は長頸壺で、頸部中央および胴部上方に2条ずつの沈線があり、胴部のものにはその間を櫛状工具による連續刺突文がめぐる。

第45図はその他の壺・瓶類を取り上げた。1は長頸壺の頸部の破片と考えられ、外面上方に細いがはっきりとした2条の沈線がめぐる。2は壺または瓶の頸部と考えられ、2条の沈線とこれより少し距離を置いて振幅の小さい波状文が施されている。3は体部外面に孔のない耳が貼り付けてある。瓶の頸であろう。4～9は甌である。4の胴部下方から底部にかけてはカキ目が認められる。7は口唇部内面に沈線が認められる。8の底部には静止糸切り痕が認められる。10は壺の肩部の破片ではなかろうか。

11～14は有蓋壺類と考えられる。蓋11は天井部に平坦面をもち、口縁部はハの字状にひろがり、口唇部にはわずかな平坦面を作る。短頸壺12は胴部の張りが偏平で、頸部もかなり低く内傾して終わる。11と12はセット関係にあったものとみられる。短頸壺13は胴部の張りが大きく重心が上位にあり、丸底に仕上げられる。頸部は直立して終わる。有蓋壺14は頸部から肩部にかけてと胴部下方から底部にかけての破片である。頸部はわずかに内傾しながら立ち上がり、先端部を欠くが、これ以上さほど高くはならないものと考えられる。肩部と胴部との境界ははっきりしており、くの字に折れ曲がる。肩部の中程ぐらいの位置に、蓋を置いて重ね焼きした時に生じたとみられる色斑が認



第48図 1区その他の出土遺物実測図 (10) (1 : 3)

められる。これから推定される蓋の口径は14.5cmほどである。胴部は比較的直線的なラインで、平底の底部にいたる。底径9.1cm、全高16.5cm以上ではなかつたかと推定される。

第46図は1が横瓶、2が壺口縁部、3が同底部である。2と3とは同一個体と考えられるが、3の外面には焼き台とみられる杯蓋の破片が付着している。杯蓋は天井部と口縁部との境がわずかな突堤で表現されており、天井部外面には回転ヘラケズリが施されている。また、同時に窓壁も付着しているが、これにはスサ状のものが認められる。

第47図は1が壺の口縁部であり、2～5は壺の口縁部から肩の一部にかけての破片である。壺の頸部外面には1条から4条までの沈線と、櫛状工具による波状文が交互に施されている。

#### 土師器類（第48図、図版40）

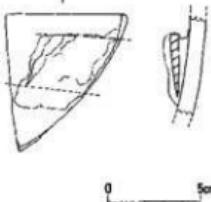
上部器には壺（1・2）、高壺（3・4）、壺・壺類

（5～8）がある。いずれも器表面の風化がすすみ、調整の不明なものが多い。1の底部外面には糸切り痕が認められる。5は複合口縁で、6～8は単純口縁のものである。6はやや薄手でわずかに丸味をもち、口唇部をわずかに突出させておわる。7・8はやや厚手で、外傾しながら端部を方形におさめる。

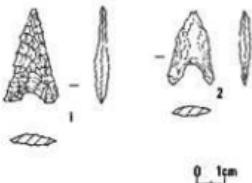
#### その他の遺物（第49・50図、図版40）

第49図は、須恵器壺片に付着した鉄刀片である。鉄刀は残存長4.0cm、刀幅3.5cm、棟幅0.4cmを測る。第50図は石器2点で、1は黒曜石製、2は安山岩製とみられる。その他、図示していないが、石器として碧玉・玉髓・黒曜石の剣片が出土している（図版40下段）。付近で玉作や石器の製作を行っていた可能性がある。

（鳥谷）



第49図 1区その他の出土遺物  
実測図(11)(1:3)



第50図 1区その他の出土遺物  
実測図(12)(1:2)

三田谷Ⅰ遺跡1区出土遺物観察表

辨別番号	測量高さ	出土地点	種別	法華(cm)	手法の特徴	粒度	焼成	色調	備考
岡24-1	27	SX-01 玄室床面	环身 (須恵器)	口径(9.4) 器高(4.5)	底部外面:回転ヘラケズ リ、底部内面:ナデ、その他:回転ナデ	1mm以下 の砂粒を 含む	良好	淡黄灰色	全体の約1% 残存
岡24-2	27	SX-01 浜道部床面	丸型 (須恵器)	径(1.3)	片面穿孔。企みあり			淡灰色	
岡26-1	27	SX-02	环身 (須恵器)	口径11.2 器高2.8	底部外面:ヘラ切りの後 ナデ、底部内面:ナデ、その他:回転ナデ	2mm以下 の砂粒を 含む	良好	淡青灰色	
岡26-2	27	SX-02	环身 (須恵器)	口径10.5 器高3.5	底部外面:ヘラ切りの後 ナデ、底部内面:ナデ、その他:回転ナデ	2mm以下 の砂粒を 多く含む	良好	青灰色	
岡26-3	27	SX-02	刀子	現存長10.8 刃長6.8 刃幅0.9					
岡28-1	27	SX-03	环蓋 (須恵器)	口径11.2 器高3.1	天井部外面:ヘラケズ リ、ナデ、大井部内面: ナデ、その他:回転ナデ	1mm以下 の砂粒を 含む	良好	外面:淡黄色 内面:青灰色	内面に竹管 文アリ
岡28-2	27	SX-03	环身 (須恵器)	口径9.8 器高2.3	底部外面:ヘラ切り、底 部内面:ナデ、その他: 回転ナデ	2mm以下 の砂粒を 含む	良好	青灰色	
岡30-1	27	SX-04	高台付环 (須恵器)	口径13.2 高台径6.7 器高4.7	底部外面:ナデまわし、 底部内面:ナデ、その他: 回転ナデ	2mm以下 の砂粒を 含む		外面:青灰色 内面:淡灰色	外面に自然 難がかかる
岡30-2	27	SX-04	高台付环 (須恵器)	口径13.4 高台径6.7 器高4.8	底部外面:ナデまわし、 底部内面:ナデ、その他: 回転ナデ	2mm以下 の砂粒を 含む		青灰色	全体の約1% 欠損
岡32-1	28	SX-01	环蓋 (須恵器)	口径10.6 器高2.4	天井部外面:ケズリ、回 転ナデ、天井部内面:ナ デ、その他:回転ナデ	1mm以下 の砂粒を 含む	良好	青灰色	
岡32-2	28	SX-01	环身 (須恵器)	口径10.5	内外面:回転ヨコナデ	15mm以下 の砂粒を 少々含む	良好	淡黄灰色	口縁部のみ 欠損
岡32-3	28	SX-01	环身 (須恵器)	口径10.2 器高3.4	底部外面:ヘラ切りの後 ナデ、底部内面:ナデ、 その他:回転ナデ	2mm以下 の砂粒を 含む	良好	青灰色	
岡32-4	28	SX-01	环身 (須恵器)	口径(5.7)	内外面:回転ナデ	2mm以下 の砂粒を 含む	良好	淡灰灰色	全体の約1% 残存
岡32-5	28	SX-01	長瓶蓋 (須恵器)	肩幅最大径 15.3 底径5.0	肩部、底部外面:回転ヘ ラケズリ、その他:回転 ナデ	1mm以下 の砂粒を 含む	良好	淡青青灰色	肩部欠損、 底部%欠損
岡35-1	28	SX-03	环身 (須恵器)	口径11.5 器高3.8	底部外面:ヘラ切りの後 ナデ、底部内面:ナデ、 その他:回転ナデ	3mm以下 の砂粒を 含む	良好	青灰色	底部少々欠 損
岡35-2	28	SX-03	环身 (須恵器)	口径12.2 器高2.9	天井部外面:回転ヘラケ ズリ、ナデ、天井部内面: ナデ、その他:回転ナデ	2mm以下 の砂粒を 含む	良好	青灰色	全体の約1% 欠損
岡35-3	28	SX-03	环蓋 (須恵器)	直径7.0	天井部外面:回転ヘラケ ズリ、大井部内面:ナ デ、その他:回転ナデ	1mm以下 の砂粒を 含む	良好	青灰色	口縁部欠損
岡35-4	28	SX-03	高台付环 (須恵器)	口径11.2 器高3.4	底部外面:ヘラ切り、ナ デまわし、底部内面:ナ デ、その他:回転ナデ	2mm以下 の砂粒を 含む	良好	青灰色	口縁部欠損
岡38-1	29	SK-05	环身 (須恵器)	口径11.2 器高3.4	底部外面:ヘラ切り、底 部内面:ナデ、その他: 回転ナデ	1mm以下 の砂粒を 少々含む	良好	淡灰灰色	外面に自然 難がかかる
岡38-2	29	SK-05	环身 (須恵器)	口径(10.5)	内外面:回転ナデ	1mm以下 の砂粒を 少々含む	良好	淡灰灰色	口縁部のみ 残存

井戸番号	深度 m	出土地点	種別	法量(cm)	手法の特徴	鉛上	焼成	色調	備考
井38-3	29	SK-0.5	环蓋 (須恵器)		内外面:回転ナデ	1mm以下の砂粒を少々含む	良好	外面: 淡黒灰色 内面: 淡灰色	口縁部少しきず
井38-4	29	SK-0.5	甕 (須恵器)		内外面: タタキ	1mm以下の砂粒を少々含む	良好	外面: 淡黒灰色 内面: 淡灰色	胴部の一部分のみ残存
井38-5	29	SK-0.5	甕 (須恵器)		内外面: タタキ	1mm以下の砂粒を少々含む	良好	外面: 淡黒灰色 内面: 淡黃灰色	底部の一部分のみ残存
井39-1	30	3 G区	环蓋 (須恵器)	口径13.4 高さ3.9	天井部外面: カキ目 その他: 回転ナデ	2mm以下の砂粒を含む	良好	青灰色	全体の約1%欠損。天井部外面に×印有り
井39-2	30	4 G区	环蓋 (須恵器)	口径13.2 高さ3.8	天井部外面: カキ目, 天井部内面: ナデ, その他: 回転ナデ	2mm以下の砂粒を含む	良好	暗灰色	全体の約1%欠損。天井部外面に×印有り
井39-3	30	4 G区	环蓋 (須恵器)		天井部外面: カキ目, 天井部内面: ナデ, その他: 回転ナデ	2mm以下の砂粒を含む	良好	青灰色	天井部の少しきず 外縁, 天井部外面に×印有り
井39-4	30	4 G区	环蓋 (須恵器)		天井部外面: カキ目, 天井部内面: ナデ, その他: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	青灰色	1. 焼成部欠損, 大井部 外面に×印有り
井39-5	30	4 G区	环蓋 (須恵器)	口径(6.4)	内外面: 回転ナデ	2mm以下の砂粒を含む	良好	外面: 黑灰色 内面: 淡青灰色	口縁部から 全体の一部 残存
井39-6	30	5 F区	环蓋 (須恵器)		天井部外面: カキ目, 天井部内面: ナデ, その他: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	暗灰色	全体の約1% 残存
井40-1	31	4 G区	高环蓋 (須恵器)	口径13.4 高さ2.4	天井部外面: ケズリ, 天井部内面: ナデ, その他: 回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を含む	良好	外面: 黑灰色 内面: 黄灰色	全体の約1% 残存
井40-2	31	4 G区 4 F区 3 F区	环蓋 (須恵器)	口径12.5 高さ4.1	天井部外面: ケズリ, 天井部内面: ナデ, その他: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を多く含む	良好	青灰色	全体の約1% 残存
井40-3	31	4 G区	环蓋 (須恵器)	口径12.3 高さ3.9	天井部外面: ケズリ, 天井部内面: ナデ, その他: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	青灰色	全体から口 縁部にかけて ほぼ欠損
井40-4	31	5 F区	环蓋 (須恵器)		天井部外面: ケズリ, 天井部内面: ナデ, その他: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	外面: 黑灰色 内面: 淡黄灰色	天井部の一部 と口縁部 欠損
井40-5	31	4 G区 5 F区 4 F区 4 E区	环蓋 (須恵器)	口径(14.2)	大井部外面: ケズリ, 天井部内面: ナデ, その他: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	外面: 黑灰色 内面: 淡黄灰色	天井部欠損
井40-6	31	5 F区	环蓋 (須恵器)		大井部外面: 回転ヘラケ メリ, 大井部内面: ロコ ナデ, その他: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	外面: 淡褐色 内面: 淡黄灰色	口縫部欠損, 全体約1% 残存
井40-7	31	4 F区	环蓋 (須恵器)	口径(14.4)	大井部外面: 回転ヘラケ メリ, 大井部内面: ロコ ナデ, その他: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	暗灰褐色	全体の約1% 残存
井40-8	31		环蓋 (須恵器)	口径(13.4)	天井部外面: 回転ヘラケ メリ, その他: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を少々含む	良好	暗灰色	全体の約1% 残存
井40-9	31	5 O区	环蓋 (須恵器)	口径(12.7)	大井部外面: 回転ヘラケ メリ, その他: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	全体の約1% 残存
井40-10	31	第1トレンチ 壁土中	环蓋 (須恵器)	口径(13.1)	大井部外面: 回転ヘラケ メリ, 天井部内面: ナデ, その他: 回転ナデ	1.5mm以下の砂粒を含む	良好	外面: 淡灰色 内面: 淡褐色	全体の約1% 残存
井40-11	31		环蓋 (須恵器)	口径(13.1)	大井部外面: 回転ヘラケ メリ, 天井部内面: ナデ, その他: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	淡茶灰色	全体の約1% 欠損
井40-12	31	4 G区	环蓋 (須恵器)	口径(12.3)	大井部外面: ヘラ切りの 後ナデ, 大井部内面: ナ デ, その他: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	青灰色	全体から口 縁部にかけて ほぼ欠損

辨識番号	位置	出上地点	種別	寸法(cm)	手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
岡40-13	31	4 G区	环茎 (須志器)	口径(11.6)	天井部外面: ケメリ?, 天井部内面: ナデ。その他: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	淡黄灰褐色	全体の約%欠損
岡40-14	31	第1トレッセ 盛上中	环茎 (須志器)	口径(14.5)	外外面: 回転ヨコナデ	2mm以下の砂粒を含む	良好	暗褐色	天井部欠損 口縁部約%残存
岡40-15	31	5 F区	环茎 (須志器)	口径(14.7)	外外面: 回転ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	外表面: 暗褐色 内面: 淡灰褐色	口縁部のみ約%残存
岡40-16	31	5 F区	环茎 (須志器)	口径(12.2)	外外面: 回転ヨコナデ	1.5mm以下の砂粒を含む	良好	外表面: 暗褐色 内面: 淡灰褐色	口縁部のみ約%残存
岡40-17	31	5 G区	环茎 (須志器)	口径(12.5)	外外面: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	外表面: 淡灰褐色 内面: 淡灰褐色	全体の約%残存
岡40-18	31	5 F区	环茎 (須志器)	口径(12.4)	天井部外面: ナデけし? 天井部内面: ナデ。その他: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	淡灰褐色	大井部欠損 全体の約%残存
岡40-19	32		环身 (須志器)	口径(11.2)	底部外面: 回転ヘラケズリ, 底部内面: ナデ, その他: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	黄灰色	底部ほぼ欠損
岡40-20	32		环身 (須志器)	口径11.0 器高3.9	底部外面: 回転ヘラケズリ, 底部内面: ナデ, その他: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	青灰褐色	口縁部少々欠損
岡40-21	32	4・5日付近	环茎 (須志器)	口径11.0 器高3.9	底部外面: 回転ヘラケズリ, 底部内面: ナデ, その他: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	青灰褐色	底部少々欠損
岡40-22	32	4 G区	环身 (須志器)	口径10.9	底部外面: ヘラ切り, 底部内面: ナデ, その他: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	茶灰褐色	口縁部約%欠損
岡40-23	32		环身 (須志器)	口径11.1 器高3.9	底部外面: ヘラ切りの後ナデ?, 底部内面: ナデ, その他: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	青灰褐色	底部の一部欠損
岡40-24	32	4 G区	环身 (須志器)	口径(11.3)	外外面: 回転ヨコナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	淡黄灰褐色	受部のみ約%残存
岡40-25	32		环身 (須志器)	口径(13.2)	外外面: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を少々含む	良好	暗灰褐色	受部の一部のみ残存
岡40-26	32	5 G区	环身 (須志器)	口径(12.4)	外外面: 回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	莫灰褐色	受部の一部のみ残存
岡40-27	32	5 F区	环身 (須志器)	口径(10.5)	底部外面: ヘラ切り, 底部内面: ナデ, その他: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	青灰褐色	全体の約%残存
岡40-28	32	4 D区	环茎 (須志器)	口径(9.6)	外外面: 回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	外表面: 黄灰褐色 内面: 青灰褐色	受部の一部のみ残存
岡41-1	33	4 D溝中	环茎 (須志器)	口径16.7 器高2.5	天井部外面: 回転ヘラケズリ, 天井部内面: ナデ, その他: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	黄青灰褐色	
岡41-2	33	3 F区 2 F区	环茎 (須志器)	口径(12.2)	天井部外面: ケメリ? 回転ナデ, 天井部内面: ナデ, その他: 回転ナデ	1.5mm以下の砂粒を含む	良好	淡黄灰褐色	大井部の一部少々欠損
岡41-3	33	5 H区	环茎 (須志器)	口径(15.0)	天井部外面: ケメリ, ナデ, 大井部内面: ナデ, その他: 回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を極少含む	良好	青灰褐色	全体の約%残存
岡41-4	33	2 F区	环茎 (須志器)	口径(12.4)	天井部外面: ナデ, その他: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を少々含む	良好	淡黄灰褐色	大井部の一部欠損
岡41-5	33	3 P区	环茎 (須志器)		天井部内面: ナデ, その他: 回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を含む	良好	青灰褐色	天井部のみ約%残存

測定番号	実高 厘米	出土地点	種別	法量 (cm)	手筋の特徴	耕土	耕成	色調	備考
図41-6	33	2F区	环茎 (須恵器)		天井部外面：回転ケズ ナデ、天井部内面： ナデ。その他：回転ナデ	1mm以下の 砂粒を 少々含む	良好	淡黄褐色	口縁部欠損 全体の約1/4 残存
図41-7	33	3D区	环茎 (須恵器)		天井部外面：ケメリの後 ナデ？、ナデ、天井部内 面：ナデ	1mm以下の 砂粒を 少々含む	良好	淡灰色	口縁部欠損
図41-8	33	6G区	环茎 (須恵器)		天井部外面：ケメリ、ナ デ、天井部内面：ナデ。 その他：回転ナデ	1mm以下の 砂粒を 少々含む	良好	暗褐色	口縁部欠損 全体の約1/4 残存
図41-9	33	6F区	环茎 (須恵器)		天井部外面：ケメリ、回 転ナデ、天井部内面：ナ デ。その他：回転ナデ	1mm以下の 砂粒を 含む	良好	黃褐色	口縁部欠損 全体の約1/4 残存(一部 破損)
図41-10	33		环身 (須恵器)	口径12.8 底径9.8	底部外面：魚切り、その 他：回転ナデ	1mm以下 の砂粒を 含む	良好	青褐色	口縁部少々 欠損
図41-11	33	5F区	环身 (須恵器)	口径15.7	内外面：回転ナデ	1.5 mm以 下の砂粒 を含む	良好	外面：暗青褐色 内面：淡黄褐色	口縁部の約 1/4のみ残存
図41-12	33	2D区	高台付环 (須恵器)	高台径 (11.8)	内外面：回転ナデ	0.5 mm以 下の砂粒 を含む	良好	淡黄褐色	高台部分の 一部のみ残 存
図41-13	33	3D区	高台付环 (須恵器)	高台径 (12.5)	外面：ナデ 内面：回転ナデ	1mm以下の 砂粒を 含む	良好	淡灰色	高台部分の 一部のみ残 存
図41-14	33	6F区	高台付环 (須恵器)	高台径 (7.1)	内外面：回転ナデ	3mm以下 の砂粒を 含む	良好	外面：淡黄褐色 内面：淡黄褐色	高台部分の 一部のみ残 存
図41-15	33	4D区	高台付环 (須恵器)		高台部外面：回転ナデ? その他：ナデ	1mm以下 の砂粒を 少々含む	良好	黃褐色	高台の一部 のみ残存
図41-16	33	3D区	高台付环 (須恵器)		外面：回転ナデ? 内面：ナデ	1mm以下 の砂粒を 少々含む	良好	淡灰色	高台の一部 のみ残存
図41-17	33	2D区	高台付环 (須恵器)		底部外面：ケメリ、回転 ナデ。底部内面：回転ナ デ	1mm以下 の砂粒を 少々含む	良好	淡灰色	底部の一部 のみ残存
図41-18	33		环身 (須恵器)		底部外面：ナデ、魚切り ？、底部内面：ナデ	1mm以下 の砂粒を 少々含む	良好	淡灰色	底部の一部 のみ残存
図42-1	34	3D区 4E区 5F区	高环 (須恵器)	口径(11.4) 底径(11.3) 器高13.1	环部内面：ナデ その他：回転ナデ	2mm以下 の砂粒を 少々含む	良好	外面：暗青褐色 内面：淡黄褐色	計測的1/4 部分欠損 三方に2段階 崩壊
図42-2	34	5F区	高环 (須恵器)	口径11.4 底径13.0 器高13.5	环部内面：ナデ その他：回転ナデ	2mm以下 の砂粒を 含む	良好	外面：青褐色 内面：淡黄褐色	全体の約1/4 部分欠損 三方に2段階 崩壊
図42-3	34	4G区 4F区	高环 (須恵器)	口径11.9 底径13.0 器高13.0	环部内面：ナデ その他：回転ナデ	1.5mm以 下の砂粒 を含む	良好	暗青褐色	計測的1/4 部分欠損 三方に2段階 崩壊
図42-4	34	4G区	高环 (須恵器)	口径11.8	环部内面：ナデ その他：回転ナデ	2mm以下 の砂粒を 含む	良好	淡黄褐色	計測的1/4 部分欠損 三方に2段階 崩壊
図42-5	34	5F区	高环 (須恵器)	口径11.6	环部外面：回転ナデ、ケ メリ。环部内面：ナデ、 脚部：回転ナデ	2mm以下 の砂粒を 含む	良好	淡黄褐色	計測的1/4 部分欠損 三方に2段階 崩壊
図42-6	34	5F区	高环 (須恵器)	口径10.7 底径10.0 器高9.2	环部内面：ナデ その他：回転ナデ	2mm以下 の砂粒を 含む	良好	淡黄褐色	計測的1/4 部分欠損 三方に2段階 崩壊
図42-7	34	4G区	高环 (須恵器)	口径12.1 底径10.9 器高9.3	环部外面：ツケメリ、 回転ナデ。环部内面： ナデ、回転ナデ。その他： 回転ナデ	3mm以下 の砂粒を 含む	良好	外面：暗青褐色 内面：淡黄褐色	計測的1/4 部分欠損 三方に2段階 崩壊
図42-8	34	5F区	高环 (須恵器)	口径9.2 底径10.4 器高9.5	环部外面：回転ナデ、 ナデ。环部内面： ナデ、回転ナデ。その他： 回転ナデ	3mm以下 の砂粒を 含む	良好	青褐色	計測的1/4 部分欠損 三方に2段階 崩壊

井筒番号	井筒 部品	出土地点	種別	法量 (cm)	手 法 の 特 徴	耕 土	焼成	色 調	備考
井42-9	35	4G区 4F区	高杯 (須恵器)	口径(11.3) 底径(10.8) 器高(9.1)	环部外側：回転ナデ、ケ タケズリ、环部内面：回転ナ デ、ナデ。その他：回転 ナデ	3mm以下 の砂粒を 含む	良好	淡黃褐色	环部約1/4 欠損、3/4 に焼造しア リ
井42-10	35	5F区	高杯 (須恵器)	口径(11.3) 底径10.8 器高9.1	环部外側：回転ナデ、ケ タケズリ、环部内面：回転ナ デ、ナデ。その他：回転 ナデ	3mm以下 の砂粒を 含む	良好	淡黃褐色	全體約1/4 欠損、3/4 に焼造しア リ
井42-11	35	4G区	高杯 (須恵器)	口径(10.9) 底径8.9 器高8.6	环部外側：ナデ、回転 ナデ、环部内面：ナデ、回 転ナデ。その他：回転 ナデ	1mm以下 の砂粒を 含む	良好	青灰色	环部約1/4 欠損、3/4 に焼造しア リ
井42-12	35	4G区	高杯 (須恵器)	口径11.8	外面：回転ナデ、ケタ ケズリ 内面：回転ナデ	1mm以下 の砂粒を 含む	良好	外面：黃灰色 内面：淡黃色	环部のみ約 1/4欠損
井42-13	35	5F区	高杯 (須恵器)	口径(11.0) 底径(8.9) 器高12.5	环部内面：回転ナデ、ナ デ、その他：回転ナデ	2mm以下 の砂粒を 含む	良好	紫灰色	半 大 部分、輪廓的 な欠損、3/4 に焼造しア リ
井42-14	35	5F区	高杯 (須恵器)	口径(10.2)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ、ナデ	1.5mm以 下の砂粒 を含む	良好	黑灰色	环部約1/4 欠損、3/4 に焼造しア リ
井42-15	35	4G区	高杯 (須恵器)		内外面：回転ナデ	1mm以下 の砂粒を 含む	良好	外面：暗褐灰色 内面：淡黃灰色	环部の一部 のみ残存
井42-16	35	4F区	高杯 (須恵器)	口径(11.5)	内外面：回転ナデ	1mm以下 の砂粒を 含む	良好	淡黃褐色	环部の口縁 部の約1/4残 存
井42-17	35	7E区	高杯 (須恵器)	口径15.5 底径7.8 器高9.8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ、ナデ	2mm以下 の砂粒を 含む	良好	淡灰色	环部約1/4 欠損
井43-1	36		高杯 (須恵器)		环部外側：回転ナデ、ケ タケズリ、环部内面：回転ナ デ、ナデ。その他：回転 ナデ	2mm以下 の砂粒を 含む	良好	青灰色	半 大 部分、輪廓的 な欠損、3/4 に焼造しア リ
井43-2	36	3G区	高杯 (須恵器)		环部外側：ヘタケズリ その他：回転ナデ	1mm以下 の砂粒を 含む	良好	茶灰色	半 大 部分、輪 廓的 な欠損、3/4 に焼造しア リ
井43-3	36	4F区	高杯 (須恵器)		环部内面：ナデ その他：回転ナデ	0.5mm以 下の砂粒 を含む	良好	淡灰色	半 大 部分、輪 廓的 な欠損、3/4 に焼造しア リ
井43-4	36	3F区 4F区	高杯 (須恵器)		环部内面：回転ナデ、ナ デ、その他：回転ナデ	1mm以下 の砂粒を 含む	良好	青灰色	半 大 部分、輪 廓的 な欠損、3/4 に焼造しア リ
井43-5	36		高杯 (須恵器)		内外面：回転ナデ	1mm以下 の砂粒を 少々含む	良好	淡青灰色	半 大 部分、輪 廓的 な欠損、3/4 に焼造しア リ
井43-6	36	4F区	高杯 (須恵器)		环部内面：ナデ その他：回転ナデ	1mm以下 の砂粒を 少々含む	良好	淡黃褐色	半 大 部分、輪 廓的 な欠損、3/4 に焼造しア リ
井43-7	36	5F区	高杯 (須恵器)		内外面：回転ナデ	1mm以下 の砂粒を 少々含む	良好	暗褐灰色	脚下部のみ 約1/4残存
井43-8	36	5F区	高杯 (須恵器)	底径(12.3)	内外面：回転ナデ	1mm以下 の砂粒を 含む	良好	淡黃褐色	脚部の少 ない部分、3/4 に焼造しア リ
井43-9	36	4G区 3F区 4F区	高杯 (須恵器)	底径(10.5)	内外面：回転ナデ	1mm以下 の砂粒を 含む	良好	外面：暗褐色 内面：淡黃灰色	脚部の少 ない部分、3/4 に焼造しア リ
井43-10	36	5G区	高杯 (須恵器)	底径(9.7)	内外面：回転ナデ	1mm以下 の砂粒を 少々含む	良好	灰褐色	脚部の少 ない部分、3/4 に焼造しア リ
井43-11	36	5F区	高杯 (須恵器)	底径(13.8)	内外面：回転ナデ	1mm以下 の砂粒を 少々含む	良好	黄灰色	脚部のみ約 1/4残存
井43-12	36	4F区	高杯 (須恵器)	底径(12.3)	内外面：回転ナデ	1mm以下 の砂粒を 少々含む	良好	淡黃褐色	脚下部の約 1/4残存

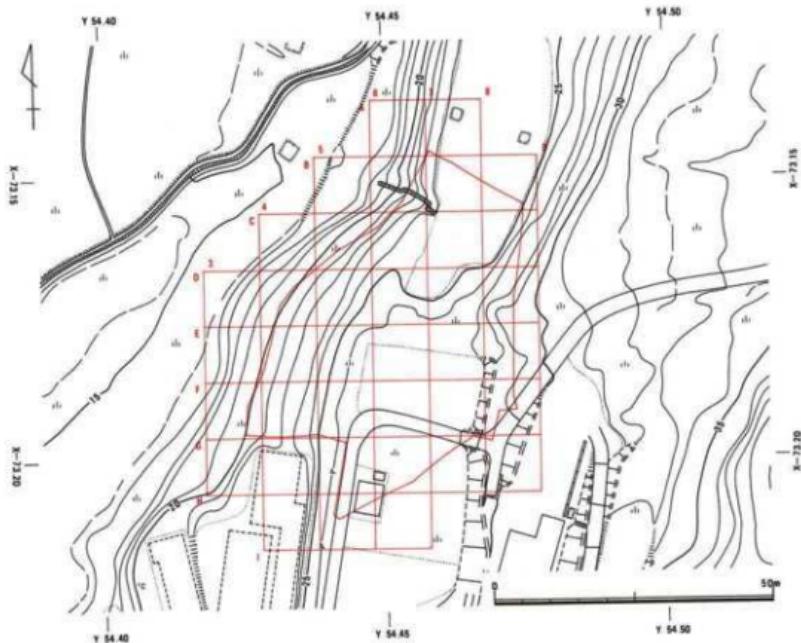
辨識番号	品目	出上地点	種別	計量(cm)	手法の特徴	胎土	焼成色調	備考
国43-13	36	4 F区	高杯 (風呂器)	底径(10.4)	内外面:回転ナデ	1mm以下 の砂粒を 少々含む	良好 青灰色	脚部のみ約 1%残存
国43-14	36		高杯 (風呂器)	底径(10.6)	内外面:回転ナデ	1.5mm以 下の砂粒を 少々含む	良好 外面:黒灰色 内面:暗灰色	脚部のみ約 1%残存
国43-15	36	4 G区	高杯 (風呂器)	底径(8.8)	内外面:回転ナデ	2mm以 下の砂粒を 多く含む	良好 外面:暗灰色 内面:暗灰色	脚部のみは ほ残存
国44-1	37	5 G区	壺 (風呂器)	口径9.3 基高12.7	胴下部、底部外面:ケズ リ、その他:回転ナデ	2mm以 下の砂粒を 多く含む	良好 淡黄灰色	脚部の約 1%欠損
国44-2	37	5 P区	壺 (風呂器)	口径(4.7) 基高13.5	胴下部、底部外面:ケズ リ、その他:回転ナデ	1.5mm以 下の砂粒を 含む	良好 暗灰色	II型部から 腹部にかけ て約1%欠損
国44-3	37	5 G区	壺 (風呂器)	口径(9.8) 基高13.9	胴下部、底部外面:ヘラ ケズリ。その他:回転ナ デ	1mm以 下の砂粒を 多く含む	良好 淡黄灰色	II型部の約 1%、腹部の 約1%欠損 腹部に横 縞模様に ×由アリ
国44-4	37	4 G区 4 P区 5 F区	壺 (風呂器)	口径(8.4)	胴下部外面:ケズリ その他:回転ナデ	1mm以 下の砂粒を 含む	良好 黒灰色	口縫部から 腹部にかけ て約1%欠損
国44-5	37	4 G区	壺 (風呂器)	口径(9.6)	内外面:回転ナデ	2mm以 下の砂粒を 多く含む	良好 外面:暗灰色 内面:淡黃灰色	口縫部の約 1%のみ残存
国44-6	37	5 G区	壺 (風呂器)	口径(9.1)	内外面:回転ナデ	1.5mm以 下の砂粒を 多く含む	良好 外面:淡青灰色 内面:暗灰色	II型部から 腹部の約1% 残存
国44-7	37	4 HG付近	壺 (風呂器)		胴下部、底部外面:回転 ヘラケズリ。その他:回 転ナデ	4mm以 下の砂粒を 含む	良好 外面:暗青灰色 内面:淡黃灰色	胴体下の み残存
国44-8	37	5 F区	壺 (風呂器)		底部外面:回転ヘラケ ズリ。その他:回転ヨコナ デ	1mm以 下の砂粒を 多く含む	良好 外面:暗褐色 内面:暗褐色	胴部下の 約1%残存
国44-9	37	5 G区	壺 (上部器)		胴部、底部内面:回転ナ デ。その他:調整不明	1mm以 下の砂粒を 含む	良好 淡黄灰色	口縫部の一 部欠損
国44-10	37	3 F区 4 P区	長颈壺 (風呂器)	口径(7.0) 底径(4.9)	胴下部、底部外面:回転 ヘラケズリ。底部内面:回 転ナデ。その他:回 転ヨコナデ	3mm以 下の砂粒を 少々含む	良好 外面:淡青灰色 内面:淡黃灰色	腹部横縞に 分かれたた だすと判 定実験
国45-1	38	6 F区	長颈壺 (風呂器)		内外面:回転ナデ	0.5mm以 下の砂粒を 少々含む	良好 青灰色	頭部のみ約 1%残存
国45-2	38	5 F区	壺 (風呂器)		内外面:回転ナデ	1mm以 下の砂粒を 多く含む	良好 灰褐色	頭部の一 部のみ残存、 外面に横状 文アリ
国45-3	38	2 F区	美底 (風呂器)		内外面:ナデ	1mm以 下の砂粒を 含む	良好 外面:黃灰色 内面:黃褐色	つまみを含 む底辺部分 の1片
国45-4	38	4・5 H付近	壺 (風呂器)	口径11.5 底径3.8 基高15.0	胴部外面:ケズリ。底部 外面:カキ目。その他: 回転ナデ	0.5mm以 下の砂粒を 少々含む	良好 淡灰色	口縫部の約 1%欠損、 底部に横 縞模様アリ
国45-5	38	4 G区	壺 (風呂器)	口径(10.8)	内外面:回転ナデ	1mm以 下の砂粒を 少々含む	良好 淡灰褐色	口縫部の約 1%欠損、 14条の横状 文アリ
国45-6	38	4 C区 5 F区	壺 (風呂器)	口径(9.7)	内外面:回転ナデ	1mm以 下の砂粒を 少々含む	良好 淡黑灰色	5条の横状 文アリ
国45-7	38	5 F区	壺 (風呂器)		内外面:回転ナデ	1mm以 下の砂粒を 含む	良好 外面:暗青灰色 内面:淡黃褐色	口縫部の み残存
国45-8	38	古墳周辺、男 奈高色土中	壺 (風呂器)	底径(6.1)	胴下部外面:回転ヘラ ケズリ。底部外面:糸切り その他:回転ナデ	1mm以 下の砂粒を 含む	良好 黄灰色	頭部のみ残 存
国45-9	38	4 E区	壺 (風呂器)		内外面:回転ナデ	0.5mm以 下の砂粒を 少々含む	良好 外面:青灰色 内面:青素灰色	頭部の一部 のみ残存、 口縫部の割れ 文アリ
国45-10	38	5 D区	壺 (風呂器)		内外面:回転ナデ	0.5mm以 下の砂粒を 少々含む	良好 黄灰色	頭部の一部 のみ残存、 5条の横状 文アリ

探査番号	高さ 西傾	出土地点	種 別	法量 (cm)	手 法 の 特 徴	耕 土	発 成	色 調	備 考
IG45-11	38	4 G 区	壺蓋? (須恵器)	基部径 11.2	天井高、口縁上部外面: ヘタ切りの後ナデ、その他: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を少々含む	良好	黄灰色	口縁部から底部の一帯のみ残存
IG45-12	38	4 F 区	短頸壺 (須恵器)	口径 7.1 器高 6.9	底部外面: ヘタ切りの後ナデ、底部内面: ナデ、その他: 回転ナデ	2mm以下の砂粒を多く含む	良好	外側: 淡青灰色 内面: 淡黄灰色	上半部の約 1/2欠損
IG45-13	38	4 G 区 4 F 区	短頸壺 (須恵器)	口径 (8.0) 器高 13.1	底部外面: 回転ヘタケズリ、底部内面: ナデ、その他: 回転ナデ	3mm以下の砂粒を含む	良好	外側: 淡青灰色 内面: 淡黄灰色	全体の約 1/2残存
IG45-14	38	6 F 区 8 F 区	有蓋壺 (須恵器)		肩下部、底部外面: 回転ヘタケズリ。その他: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を多く含む	良好	淡青灰色	腹部、肩部の中央部欠損
IG46-1	39		瓶瓶 (須恵器)	口径 8.1	内外面: タタキ	1mm以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	肩部の約 1/2欠損
IG46-2	39	5 H 区	壺 (須恵器)	口径 (21.2)	内外面: 回転ナデ	1.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	外側: 風灰 内面: 淡黄灰色	口縁部のみ 残存
IG46-3	39	6 G 区	壺 (須恵器)		内外面: タタキ	1mm以下の砂粒を少々含む	良好	外側: 淡青灰色 内面: 黄灰色	底部の土塊 が剥離する 所に付着 してある 所
IG47-1	39	第1トレンチ 壁土中	壺 (須恵器)	口径 (20.8)	内外面: 回転ミコナデ	2mm以下の砂粒を少々含む	良好	外側: 淡青灰色 内面: 黄灰色	口縁部のみ 残存
IG47-2	39	5 G 区 第1トレンチ 壁土中	壺 (須恵器)		内外面: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を少々含む	良好	外側: 黄灰色 内面: 淡青灰色	口縫部の一部 のみ残存
IG47-3	39	第1トレンチ 2 F 区 4 F 区	壺 (須恵器)	口径 (35.0)	肩部内外面: タタキ その他: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	外側: 淡青灰色 内面: 黄灰色	口縫部から 肩部の一部 が剥離する 所に付着 してある 所
IG47-4	39		壺 (須恵器)	口径 (40.3)	肩部内外面: タタキ その他: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を含む	良好	淡青灰色	口縫部から 肩部の一部 が剥離する 所に付着 してある 所
IG47-5	39	5 F 区 5 G 区	壺 (須恵器)	口径 (48.0)	口縫下部: カオ目のナデ けし。その他: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を少々含む	良好	暗青灰色	口縫部の一部 が剥離する 所に付着 してある 所
IG48-1	40	7 E 区	杯身 (土師器)	底径 (5.0)	底部外面: 回転糸切り その他の: 回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	茶灰色	底部から体 部の一部のみ 残存
IG48-2	40	3 D 区	杯身 (土師器)	底径 (6.1)	体部外面: ミコナデ? その他: 調整不明	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	赤茶色	底部から体 部の一部のみ 残存
IG48-3	40	5 F 区	高杯 (土師器)		外面: ナデ 内面: ナデ?	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	淡青灰色	脚くわれ部 分のみ残存
IG48-4	40	4 G 区	高杯 (土師器)		内外面とも調整不明	1mm以下の砂粒少々含む	良好	淡青茶色	脚くわれ部 分の一部 が剥離する 所に付着 してある 所
IG48-5	40	4 D 区	壺 (土師器)	口径 (15.9)	内外面: ミコナデ	4mm以下の砂粒を含む	やや 不良	淡黄褐色	口縫部のみ 約1/2残存
IG48-6	40	4 D 区	壺 (土師器)	口径 (14.9)	口縫合部外面: ケズリ? その他: 調整不明	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	明黄茶色	口縫部の一部 残存
IG48-7	40	4 D 区	壺 (土師器)	口径 (14.8)	口縫合部外面: ナデ? 口縫合部内面: ケズリ? その他: ミコナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	淡黄茶色	口縫部の約 1/2残存
IG48-8	40	4 D 区	壺 (土師器)	口径 (16.4)	口縫合部外面: ケズリ? その他: 調整不明	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	淡黄褐色	口縫部、肩 部の約1/2残 存
IG49-1	40	5 G 区	鉢刃片	刃幅 3.4 幅幅 0.4 現存長 3.5	鋸化進む				須恵器使用 に付着
IG50-1	40	3 F 区	石壺	全長 2.5 最大幅 1.4					無縫石製
IG50-2	40	4 F 区	石壺	全長 2.1 最大幅 1.3					安山岩質

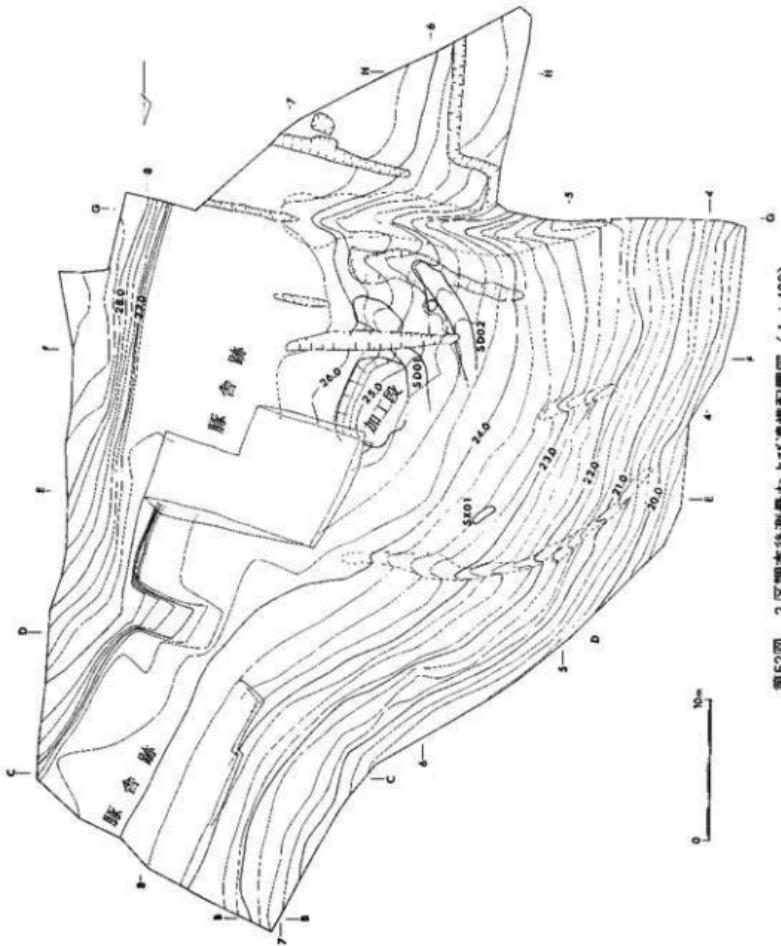
## V 三田谷Ⅱ遺跡2区の調査

### 1. 調査区の設定と層序

2区は、三田谷を入り口部分から東に150mほど入った地点で、これより東側に位置する1区とは80mほどの距離を置く。所在は出雲市上塩治町半分903番地1および3105番地である。試掘により溝状の遺構や遺物包含層が認められた約2500m<sup>2</sup>を対象に本調査を実施することとなったが、この調査に先立ち、第51図のように現地を10m方眼に区切って小調査区を設定した。軸線は、国土座標のX・Y軸に一致させ、南北軸を数字ライン、東西軸をアルファベットラインとした。一区画については南西隅の交点名をもって呼び、遺構に伴わない遺物の取り上げなどはこれによって行った。2区の地形は、標高25m前後の低丘陵の北側斜面に当たるが、事業直前まで豚舎が建つなど、地形の変化が著しいと



第51図 三田谷Ⅱ遺跡2区調査区設定図 (1:1000)



ころであった。この地点の層序については、やや粘性のある赤褐色ないしは明茶褐色の地山のうえに、暗褐色土層、茶褐色土層、暗黒褐色土層などが堆積していた。遺物は暗褐色土層を中心にはんどすべての堆積層から出土した。また、遺構は地表面において検出した。調査面積は、豚舎の屎尿処理施設などに阻まれて最終2300m<sup>2</sup>で終えた。

## 2. 2区検出の遺構

2区は、地形の改変が著しいところであったが、土坑墓1（SX01）、加工段および溝状遺構2（SD01・02）を検出した。また、調査区南端では谷状地形が認められた。

SX01（第53図、図版44）

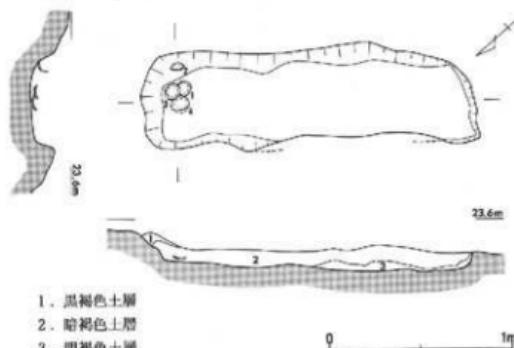
調査区の中央やや西よりの緩斜面で検出した、ほぼ長方形を呈した土坑である。長さ1.8m、幅0.5m、深さは検出面から最大で20cmを測る。底面は平坦で、長軸は北東から南西方向を向いている。北東壁近くで土師器4点がほぼまとめて出土した。うち3点は底面よりわずかに浮いた状態で、

内面を上にしたかたちでし

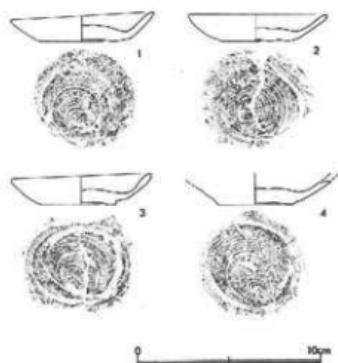
かも少し重なり合いながら検出した。残る1点は底面からは少し離れて北東壁に倒れかかるような状態で検出した。規模、形態、出土遺物から、土坑墓と考えられる。

同出土遺物（第54図、図版50）

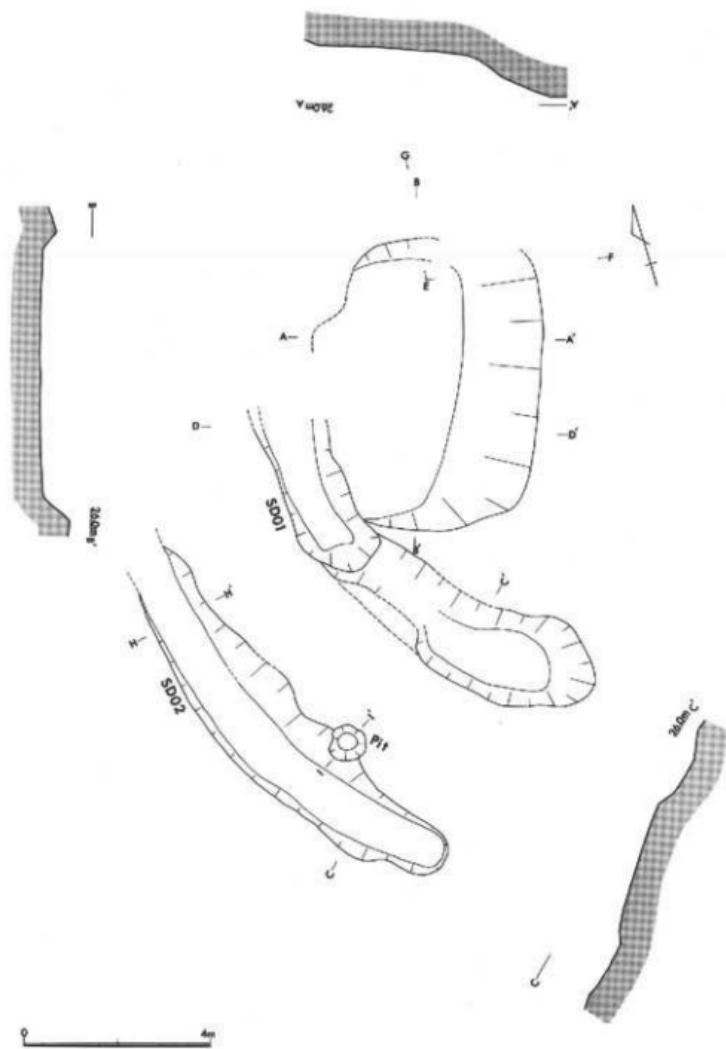
1～4は口径・器高ともほぼ同一の土師器で、底部外縁には回転糸切り痕が明瞭に認められる。いずれも体部の立ち上がりは短く逆ハの字状に外傾し、端部は丸く終わる。底部は体部に比べ肉厚で、内面中央がやや盛り上がり凸面状を呈している。また、4点は胎土、焼成、色調も共通している。



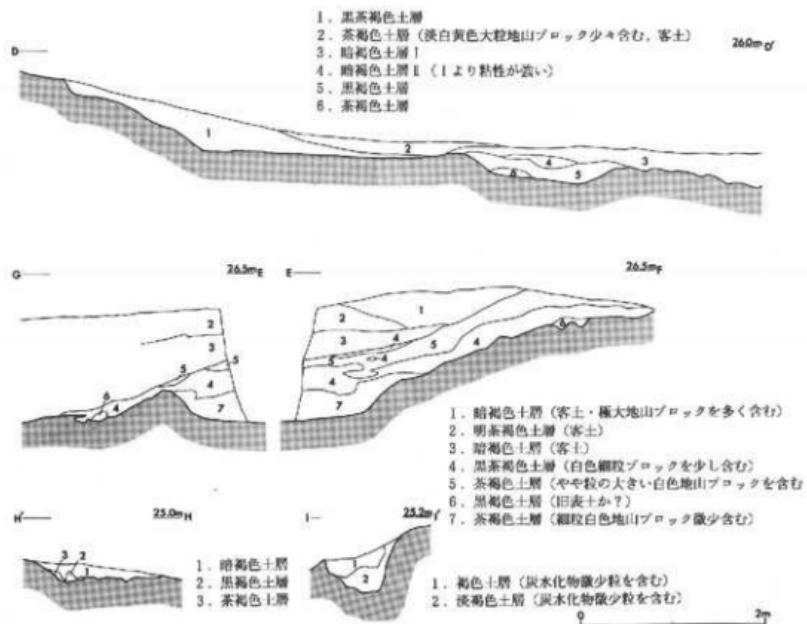
第53図 2区SX01実測図（1:30）



第54図 2区SX01出土遺物実測図（1:3）



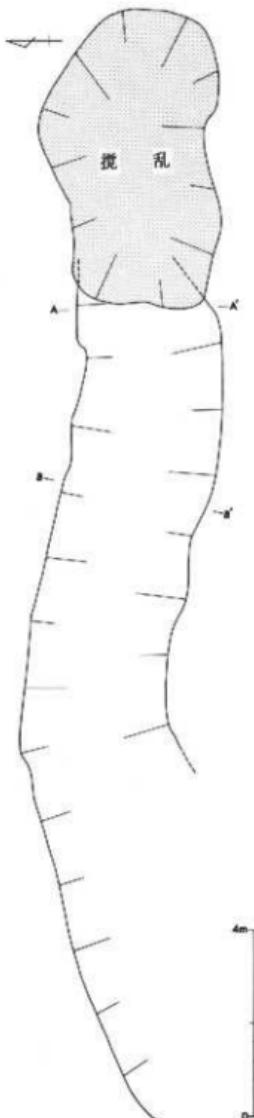
第55図 2区SD01・02及び加工段実測図 (1:120)



第56図 2区SD01・02及び加工段土層断面図(1:60)

加工段およびSD01・02(第55・56図、図版45~47)

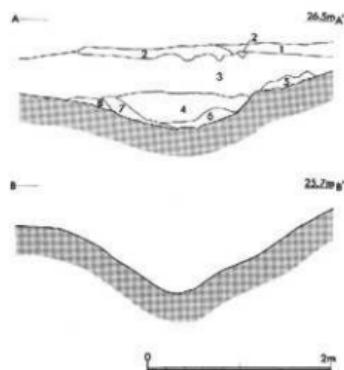
調査区のはば中央で検出した遺構である。加工段は、東側から西側に傾斜する斜面をL字状にカットしたもので、やや不整形ながら方形形状の平坦面が作り出されている。平坦面は南北方向に長く、南北幅5.6m、東西幅2.9mを測る。この平坦面には盛土にも似たかたちで白色の地山ブロックを含む黒茶褐色土層・茶褐色土層が堆積していた。SD01は加工段平坦面の南西側から南に向かって検出した浅い溝で、不整形ながら弧状に認められた。南端は丸く終わるが、北側はさらに伸びていたものと推定される。確認した範囲で全長は8.8m、幅は下端で平均して0.9mを測る。深さは南側で標高25.7m、北側で同24.8mを測り、傾斜がついている。SD02は同01から西側に約2.6m離れて検出した浅い溝で、やはり弧状に認められた。全長9.0m、幅は下端で1.0mを測り、北側はさらに伸びていたものと思われる。深さは南側で標高25.4m、北側で同24.5mあり、01と同様に緩やかな傾斜がみられる。なお、このSD02の南端付近には径120cm、深さ65cmのピットが認められた。これらの遺構の年代・性格については、出土遺物もなかったことから不明といわざるえない。



第57図 2区谷状地形実測図 (1 : 120)

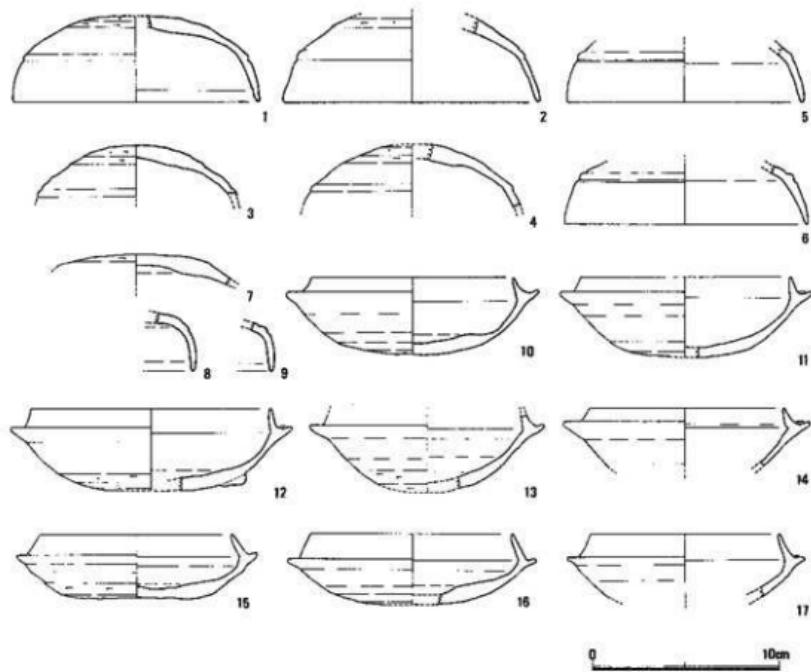
### 谷状地形 (第57・58図、図版48・49)

調査区の南西側で認められた溝で、傾斜面を東側から西側に向かってわずかにS字状にカーブしながら下っている。この谷状地形は周囲でみられた他の溝と同様に、一応自然の浸食作用によってできたものと考えられるが、念のためここに記述しておく。規模は、確認した範囲で長さが17m、中央での幅は3mあり、東端は後世の擾乱により大きくえぐられていた。また、西側はさら伸びているものと思われる。出土遺物はいずれも流れ込みのものと考えられるが、少なくとも4層以下の土層には須恵器・土師器以外の遺物は認められなかった。須恵器は甕片が最も多かったが、他に环・壺類もあり、なかには完形品に近いものも出土している。ちなみに、以下で図示した遺物のうち、第60図の1～3・14・16、第61図の1～4・11・17、第62図の4、第63図の1・5・6、第64図の2・6、第66図の7、第67図の5、第68図の1・2・10・11がこの谷状地形から出土している。



- |           |                     |                  |
|-----------|---------------------|------------------|
| 1. 褐色土層   | 4. 暗褐色土層Ⅱ           | 7. 暗赤褐色土層Ⅰ（粘性あり） |
| 2. 褐色砂質土層 | 5. 暗茶褐色土層           | 8. 暗茶褐色土層Ⅱ       |
| 3. 暗褐色土層Ⅰ | 6. 暗褐色土層Ⅲ（やや鉄味が加わる） |                  |

第58図 2区谷状地形土層断面図 (1 : 60)



第59図 2区その他の出土遺物実測図 (1) (1 : 3)

### 3. 2区出土のその他の遺物

2区では、遺構に伴わないものの、多くの遺物が出土した。遺物には須恵器、土師器、陶磁器、耳環、石鏡などがあり、このうち最も川土量の多かったのは須恵器の破片である。出土地点は、調査区のはば全城にわたったが、中でも多かったのは加工段およびSD01・02の北西側緩斜面と、谷状地形の周辺であった。加工段側では古墳時代後期の須恵器が、また、谷状地形周辺では奈良時代以降の須恵器が多く認められた。

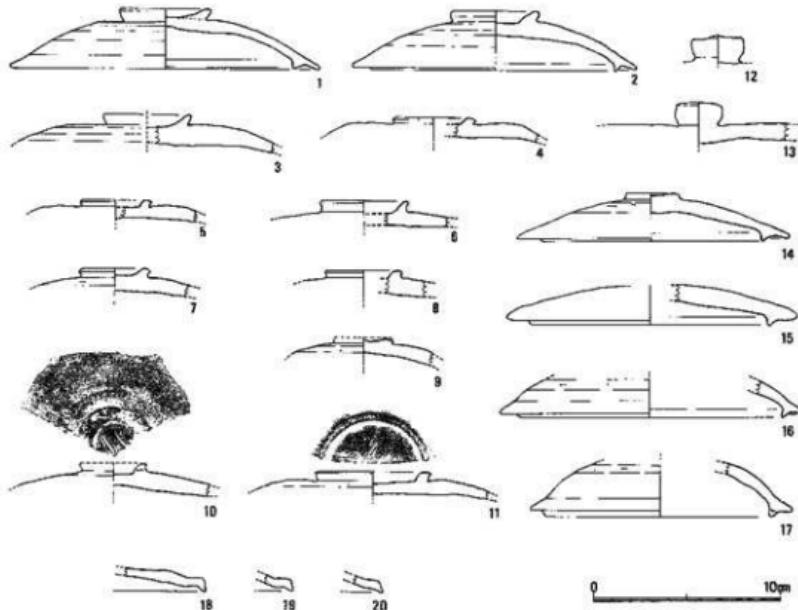
#### 須恵器坏類 (第59~61図、図版51~53)

第59図は、蓋坏で身のうちに受け部を伴うものである。蓋1~9は、天井部の高いものとやや扁平なものがある。また、天井部と口縁部との鞍が丸く突帯風に作り出したもの (1~6) と、2条の沈線によって作り出された鋭い段によって区分されたもの (7~9) とがある。このうち1の内向には軽い段が認められる。天井部外面についてはいずれも回転ヘラケズリが施されている。身

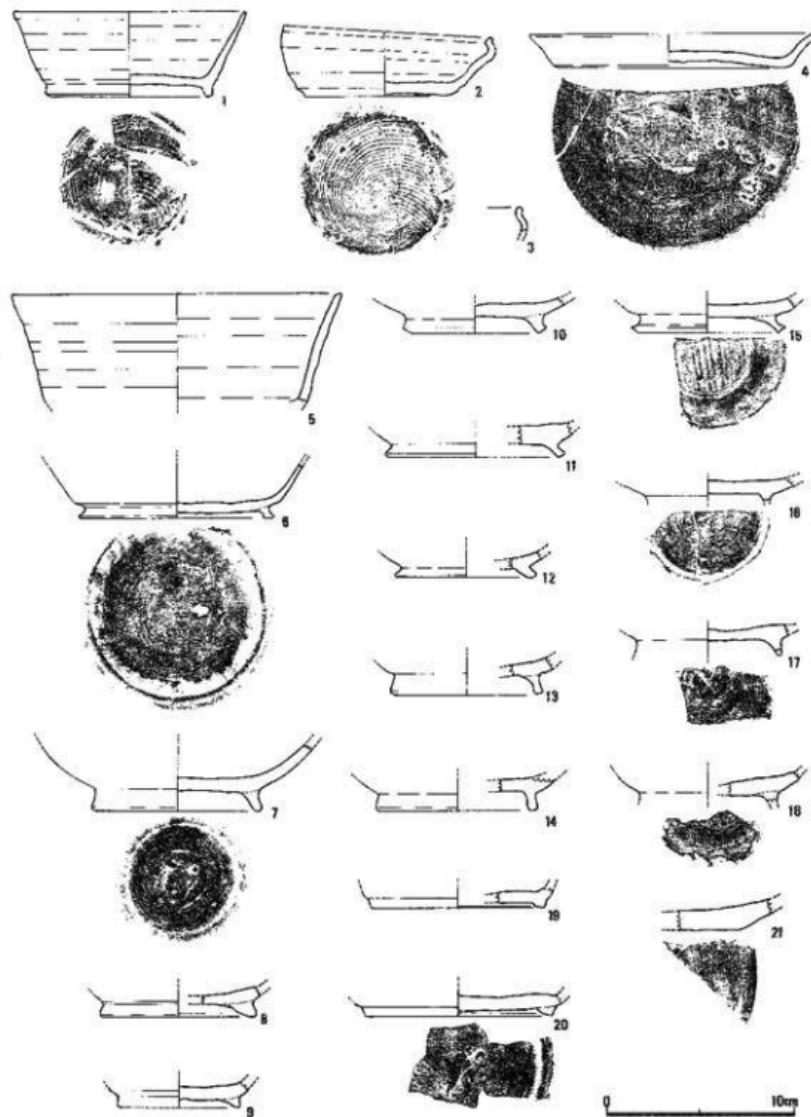
10~17も、蓋と同様に器高の高いものと、偏平なものがある。受け部の立ち上がりはいずれも内傾するが、前者は比較的その度合いが弱く、後者はそれに比べ強い。

第60図では、环蓋のうち大井部につまみを有したり（1~14）、あるいは1・2も含め口縁内面に返りをもつもの（15~17）、ないしは端部をかるく下方に折り曲げたもの（18~20）を取り上げた。つまみには輪状のもの（1~11）、ボタン状のもの（12~13）、偏平なもの（14）があるが、輪状のものにはさらに端部を単純に丸く収めたもの（1~3など）と、方形にして平坦面をもつもの（4~5など）がある。また、10・11のようにつまみの中にヘラ記号が認められるものもある。口縁内面に返りをもつものには、つまみが輪状のもの（1・2）と、偏平なもの（14）がある。17には宝珠状のつまみが伴っていた可能性がある。なお、10・13は壺の蓋の可能性も考えられる。

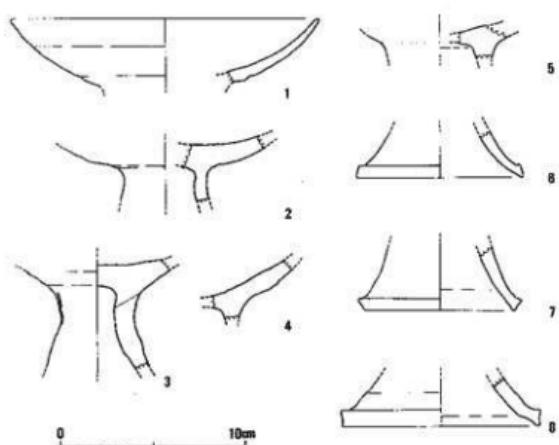
第61図は、环のうち、高台付きのもの（1, 5~20）や、糸切り底で無高台のもの（2・3, 21）、それに皿状のもの（4）を取り上げた。高台付きのものは、のちにナデを加えたものがあるが、明らかに底部が糸切りのもの（1・15）、ヘラ切りのもの（7・19・20）、回転ヘラケズリを施したもの（8）がある。高台は、直立気味のもの（1）、「ハ」の字に広がるもので丸く終わるもの



第60図 2区その他の出土遺物実測図（2）（1：3）



第61図 2区その他の出土遺物実測図 (3) (1 : 3)



第62図 2区その他の出土遺物実測図(4)(1:3)

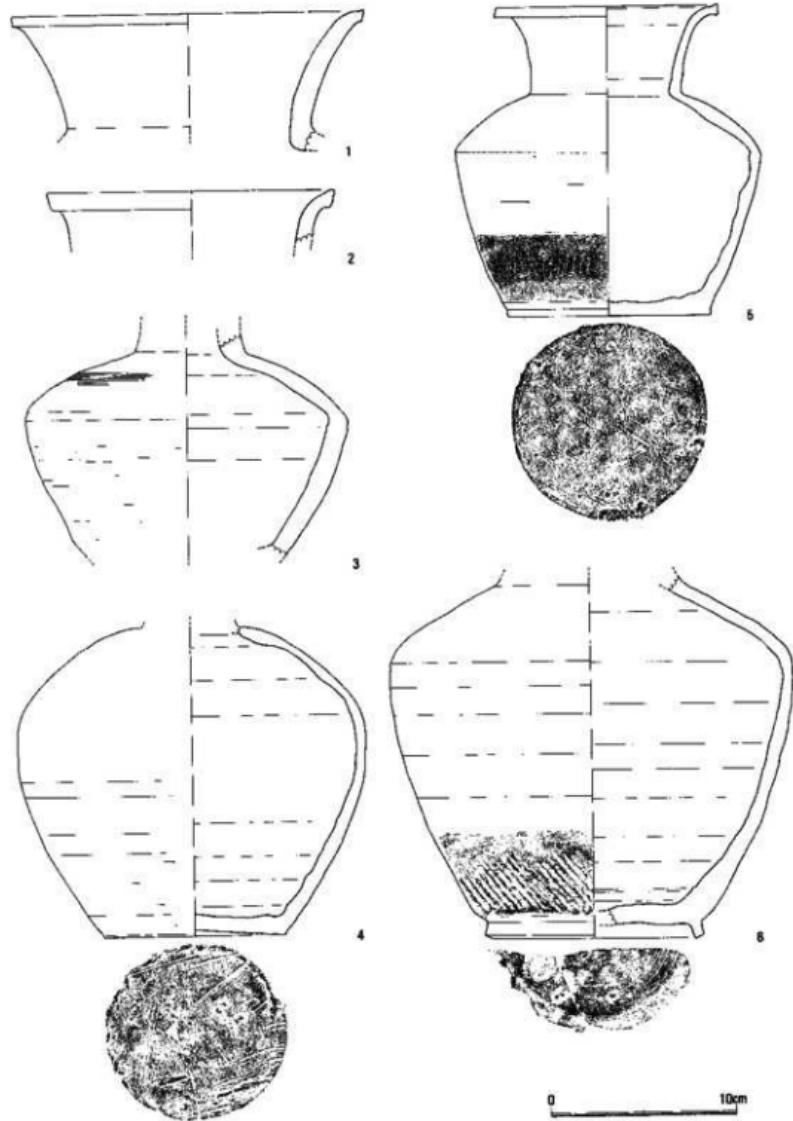
#### 須恵器高环類(第62図、図版54)

第62図は、高环類であるが出土量は少ない。1が环部、2~5が接合部、6~8が脚部と考えられるものである。透かしは2・3に認められる。3の場合、2方向の透かしである。なお、8は壺の口縁の可能性も考えられる。

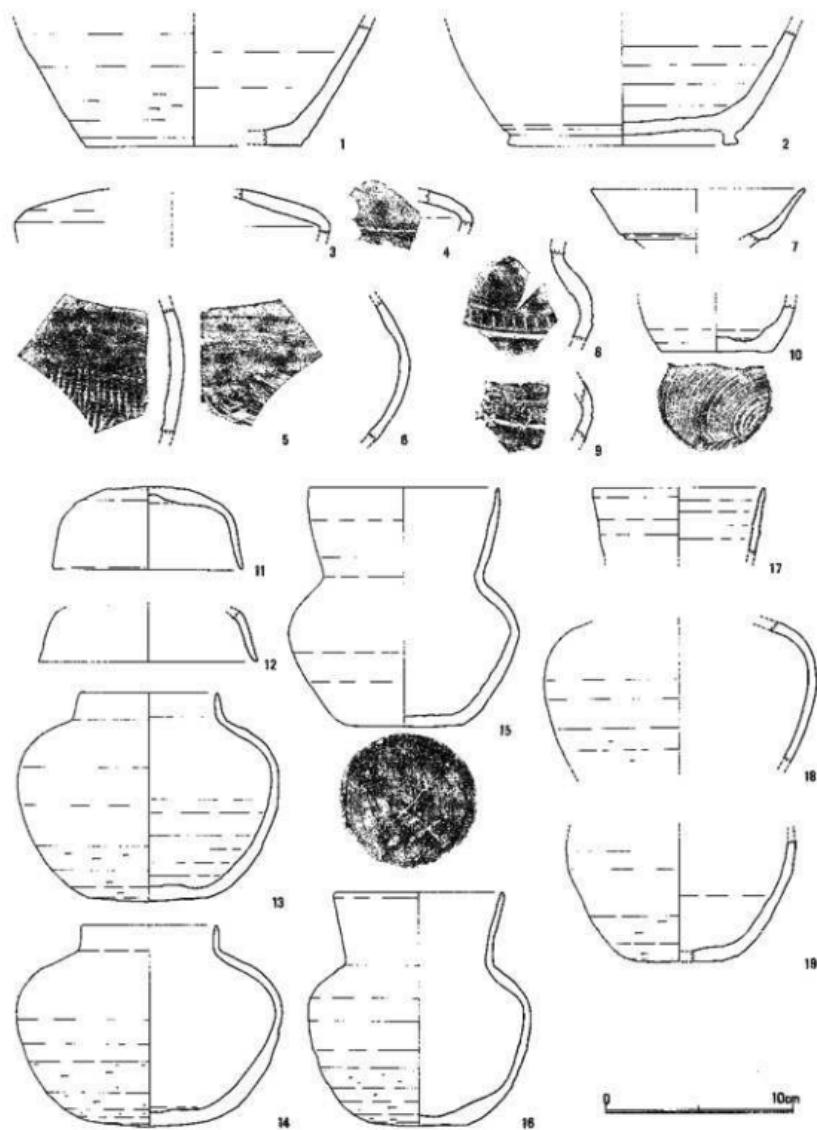
#### 須恵器壺・甕類(第63~67図、図版54~58)

第63図は、壺類の頸部と、胴部の全容がほぼ分かるものである。1・2は単純口縁で、端部に平坦面を有する。3は長頸壺の肩部かとみられるが、やや上位で肩がつき「く」の字に折れ曲がる。肩のつかない4は、胴部が上方で張り、丸みをもちらながら底部に至る。胴部の調整は内面が回転ナデ、外面が丁寧な回転ヘラケズリを施す。底部は明瞭な平底で、回転台から取りはずしたのち(?)粗くナデを施す。5は胴部の上位で明瞭な稜線がつくが、肩部が丸味をもつて対しそれより以下は直線的である。器高に比べ、胴部の張りが大きくやや偏平な感がある。調整は肩部以上が回転ナデ、それより以下は丁寧に回転ヘラケズリを施すが、胴部下半の一部に平行タタキ目痕のごときかすかな凸凹が認められる。回転ヘラケズリの際に生じた痕跡であろうか。底部については、粗いナデが加わるもの、粘土板から成形したのち、回転台からそのまま取り外したようにも見受けられる。6は肩の稜線が曖昧だがかなり上位で胴部が張るタイプのもので、底部にはわずかに開き気味の高台がつく。調整は胴部はほとんど回転ナデであるが、下端には格子状タタキ目痕を残している。底部はヘラ切りのち、ナデを施している。

(7~9など)や、方形に終わるもの(10~14)、また、ほとんど高さを有しないもの(19・20)など多様である。16~18の底部外面にはヘラ記号状のものが認められる。4は立ち上がりが短く外傾するもので、底部はヘラ切りのち粗くナデで仕上げられている。この内面には火ダスキ風の焼成痕が認められる。



第63図 2区その他の出土遺物実測図(5)(1:3)



第64図 2区その他の出土遺物実測図 (6) (1 : 3)

第64図は、壺を含む壺類の胴部・底部の破片と、短頸壺、直口壺を取り上げた。胴部下方から底部にかけた破片で、1は平底のもの、2は高台付きのものである。3・4は壺の肩部の破片で、破は明瞭、肩部は直線的である。他の須恵器類に比べ胎土が精緻である。

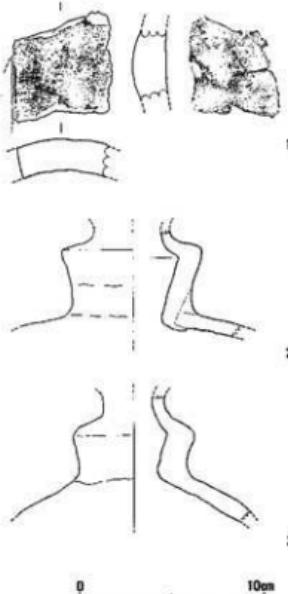
5・6は胴部の破片で、5は下方に内外面ともタタキ目を残している。6は薄手で、3・4同様精緻な胎土が注目される。7～10は壺の破片とみられ、7は11縫部、8・9は胴部で沈線と櫛状工具による連続刺突文がみられ、10は胴部下方で底部は糸切り痕を残している。11～14は有蓋短頸壺で、11・12が蓋部、13・14が胴部であり、11と13がセット関係にある可能性がある。15～17は直口壺で、15の底部外面には「×」状のヘラ記号が認められる。18・19は胴部から底部にかけた破片である。

第65図は、子持壺の破片とみられるものである。2区出土の1点(1)と、付近で表探した2点(2・3)とを併せて図示した。1は脚部の破片とみられ、

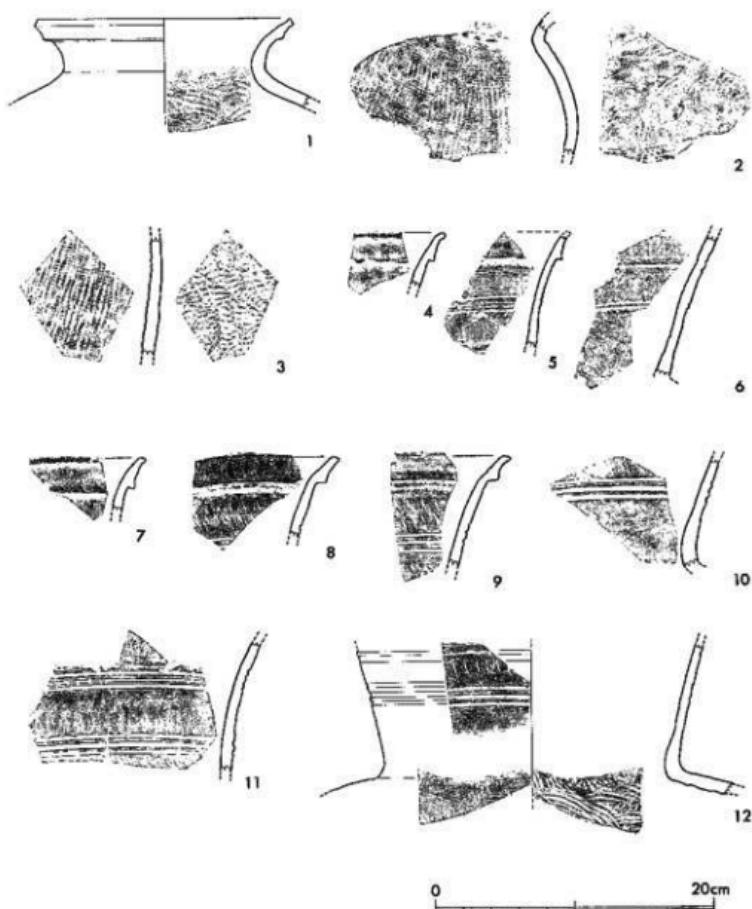
透かしを有している。透かしは、その切り口がナデ方向と少し異なる点から考えると、三角形であった可能性がある。2・3は子壺の部分で、2は肩がはっきりするが、3はやや曖昧である。2は親壺との接合方法が分かる資料で、親壺に穿孔し、その中に子壺をはめ込んで接合する手法がみられる。なお、2・3の採取地点は、2区より丘陵を40mほど南に入った畠地である(第6図)。

第66・67図は、壺・壺類の口縁部を中心にまとめたものである。

第66図は、1は口縁部先端の平坦面にはさらに面取りが施されている。2・3は肩から胴部にかけた破片で、2は外面格子状タタキ、内面同心円状タタキとするが、3の内面は放射状のタタキ目が認められる。4～7は沈線と櫛状工具による波状文が施されている通有の頸部である。同じ頸部でも9～11は特徴のある施文が施されていて注目される。9と10はヘラ状工具を器面に対して鋭角に押し当てて施したとみられる連続刺突文が沈線とともに認められる。また、11は沈線を挟んで波状文と先の刺突文とが施されている。4～6は同一個体の破片であり、7・11、9・10もその可能性がある。また、第67図の壺類の頸部は外面に1条から4条の沈線と波状文を施したものである。

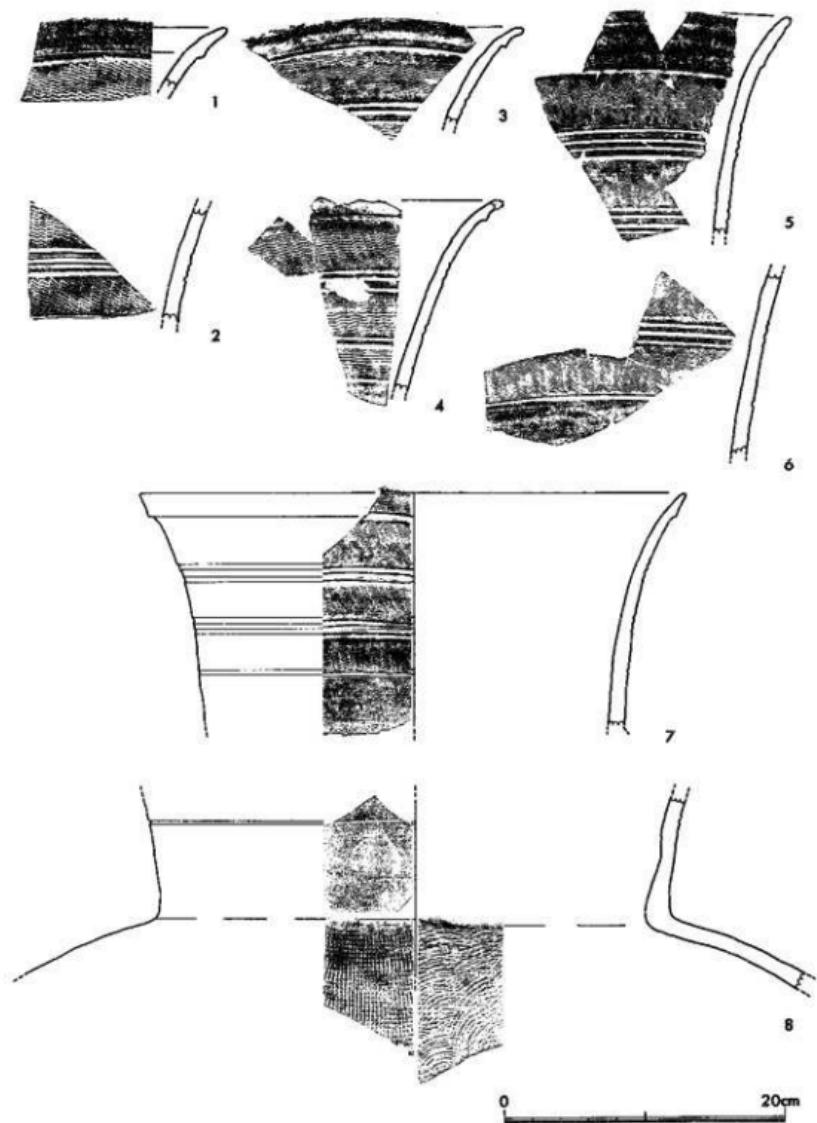


第65図 2区その他および周辺出土遺物  
実測図(?) (1:3)

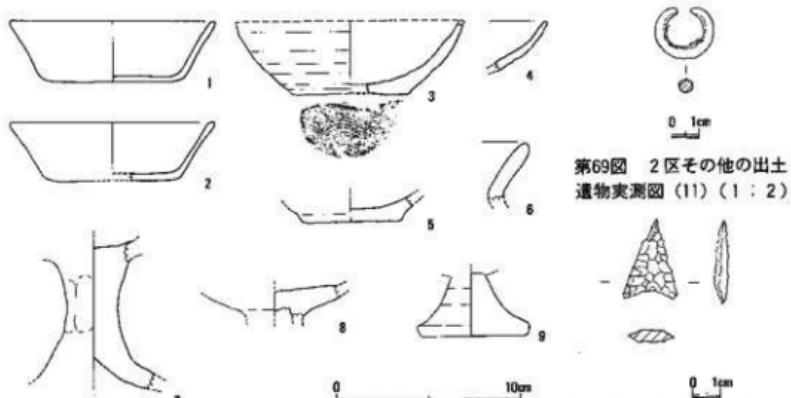


第66図 2区その他の出土遺物実測図 (8) (1:4)

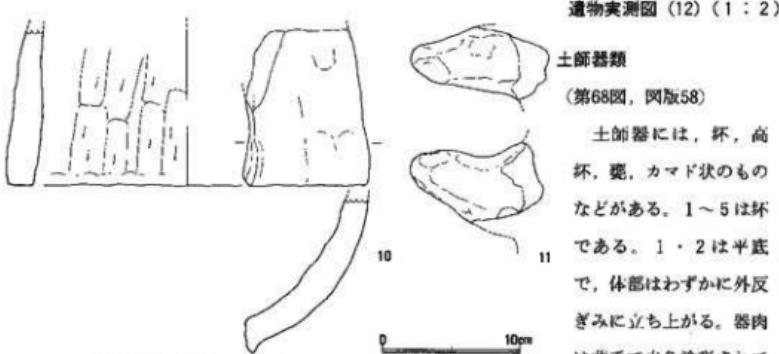
が、波状文の描き方には3のように振幅のほとんどないものもある。1・2、3・4、5・6がそれぞれ同一個体と考えられる。



第67図 2区その他の出土遺物実測図 (9) (1 : 4)



第69図 2区その他の出土遺物実測図(11) (1:2)



第70図 2区その他の出土遺物実測図(12) (1:2)

#### 土師器類

(第68図、図版58)

土師器には、杯、高杯、壺、カマド状のものなどがある。1~5は杯である。1・2は平底で、体部はわずかに外反ぎみに立ち上がる。器肉は薄手で赤色塗彩されている。3・4は体部が丸みをもちらがら立ち上がる。3・5の底部には糸切り痕が認められる。6は平純口縁の壺片である。

7・8は高杯で、7は内外面とも赤色顔料が塗られている。9は台付杯と考えられる。10はカマドの破片かと思われ、11はその把手か、または支脚の一部かと考えられる。

その他の遺物 (第69・70図、図版50)

第69図は耳環で、鍍金の一部を残している。第70図は安山岩製の石鏃である。そのほか、黒曜石と玉髓質の剝片が認められた。黒曜石には漆黒色のものと黒灰色のものがある。

(島谷)

三田谷Ⅱ遺跡2区出土遺物観察表

博物番号	測定	出土地点	種別	径 (cm)	手 法 の 特 徴	胎 士	焼成	色 調	備 考
国54-1	50	SX-01	环 (土器部)	口径7.8 器高1.5	底部外面：回転糸切り その他：回転ナデ？	2mm以下 の砂粒を 少々含む	良好	淡赤褐色	全体の約1/4 欠損
国54-2	50	SX-01	环 (土器部)	口径7.4 器高3.9 器高1.5	底部外面：回転糸切り その他：回転ナデ？	1.5mm以 下の砂粒 を少々含む	良好	淡赤褐色	全体の約1/4 欠損
国54-3	50	SX-01	环 (上部器)	口径7.4 直径4.0 器高1.7	底部外面：回転糸切り その他：回転ナデ？	1.5mm以 下の砂粒 を少々含む	良好	淡赤褐色	全体の約1/4 欠損
国54-4	50	SX-01	环 (下部器)	口径4.0	底部外面：回転糸切り その他：回転ナデ？	1mm以下 の砂粒を 少々含む	良好	淡赤褐色	全体の約1/4 欠損
国59-1	51		盖环 (裏裏)	口径(13.3) 器高4.5	天井部外面：ケズリ、天 井部内面：ナデ、その他 ：回転ナデ	0.5mm以 下の砂粒 を多く含む	良好	淡灰色	全体の約1/4 欠損
国59-2	51	6D区 5D区	盖环 (裏裏)	口径(13.7) 器高4.7	天井部外面：回転ヘラケ ズリ、その他：回転ナデ	0.5mm以 下の砂粒 を多く含む	良好	外面：黄灰色 内面：淡灰色	全体の約1/4 欠損
国59-3	51	5E区	盖环 (裏裏)		天井部外面：ケズリ、天 井部内面：ナデ、その他 ：回転ナデ	1mm以下 の砂粒を 少々含む	良好	暗青灰色	口縁部は 欠損
国59-4	51	6E区 5D区	盖环 (裏裏)		天井部外面：回転ヘラケ ズリ、天井部内面：ナデ その他：回転ナデ	0.5mm以 下の砂粒 を少々含む	良好	青灰色	全体の約1/4 欠損
国59-5	51	6E区 5E区	盖环 (裏裏)	口径(12.6)	内外面：回転ナデ	1mm以下 の砂粒を 少々含む	良好	青灰色	全体の約1/4 欠損
国59-6	51	6E区	盖环 (裏裏)	口径(13.0)	内外面：回転ナデ	0.5mm以 下の砂粒 を少々含む	良好	青灰色	全体の約1/4 残存
国59-7	51	6E区 5E区	盖环 (裏裏)		天井部外面：ケズリ、天 井部内面：ナデ、その他 ：回転ナデ	0.5mm以 下の砂粒 を少々含む	良好	外面：青灰色 内面：茶灰色	全体の約1/4 残存
国59-8	51	6E区	盖环 (裏裏)	口径(50.9)	内外面：回転ナデ	0.5mm以 下の砂粒 を少々含む	良好	茶灰色	口縁部の約 1/4残存
国59-9	51	6E区	盖环 (裏裏)		内外面：回転ナデ	0.5mm以 下の砂粒 を少々含む	良好	黑茶灰色	口縁部の一 部分のみ残存
国59-10	51	6E区 5E区	环身 (裏裏)	口径10.7 器高3.7	底部外面：回転ヘラケズ リ、その他：回転ナデ	1mm以下 の砂粒を 多く含む	良好	外面：黄灰色 内面：青灰色	全体の約1/4 欠損
国59-11	51	6E区 5E区 5D区	环身 (裏裏)	口径(11.1) 器高(4.3)	底部下面外面：回転ナデ、 底部内面：ナデ、その他 ：回転ナデ	0.5mm以 下の砂粒 を多く含む	良好	青灰色	全体の約1/4 欠損
国59-12	51	5D区 6E区 6D区	环身 (裏裏)	口径(12.9) 器高(4.4)	底部外面：ケズリ、底部 内面：ナデ。その他：回 転ナデ	1mm以下 の砂粒を 少々含む	良好	暗灰色	全体の約1/4 欠損、裏面の 焼成片付着？
国59-13	51	6E区 5E区	环身 (裏裏)	器高(4.0)	底部外面：ケズリ、底部 内面：ナデ。その他：回 転ナデ	1mm以下 の砂粒を 多く含む	良好	外面：青灰色 内面：淡灰色	全体の約1/4 欠損
国59-14	51	6E区	环身 (裏裏)	口径(10.4)	内外面：回転ナデ	0.5mm以 下の砂粒 を少々含む	良好	青灰色	口縁部の一 部分のみ残存
国59-15	51	6E区	环身 (裏裏)	口径10.3 器高3.5	底部外面：回転ヘラケズ リ、底部内面：ナデ、そ の他：回転ナデ	0.5mm以 下の砂粒 を少々含む	良好	黑茶灰色	全体の約1/4 欠損
国59-16	51	6E区	环身 (裏裏)	口径(10.3) 器高(3.0)	底部外面：回転ヘラケズ リ、底部内面：ナデ、そ の他：回転ナデ	0.5mm以 下の砂粒 を少々含む	良好	黑茶灰色	全体の約1/4 残存

井戸番号	位置 面積	川土地点	種別	法量 (cm)	手 法 の 特 徴	臉 土	燒成	色 調	備 考
西659-17	51	6 E区 5 E区 4 D区	环 壁 (須底器)	口径(10.1)	内外面: 回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	暗茶灰色	受部から体部の一部のみ残存
西660-1	52	5 F区	环 壁 (須底器)	口径16.6 器高3.2	大井部外面: 回転ナデ, 大井部内面: ナデ, その他: 回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	外面: 暗青灰色 内面: 淡灰色	全体の約%残存
西660-2	52	5 F区	环 壁 (須底器)	口径12.9 器高3.2	体部外面: 回転ヘラケ リ, 天井部内面: ナデ, その他: 回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	暗灰色	全体の約%残存
西660-3	52	5 F区	环 壁 (須底器)		体部外面: ケズリ, 天井 部内面: ナデ, その他: 回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	淡青灰色	全体の約%残存
西660-4	52	6 G区	环 壁 (須底器)		外面: 回転ナデ, 内面: ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	全体の約%欠損
西660-5	52	7 D区	环 壁 (須底器)		天井部外面: ヘラケズリ 大井部内面: ナデ, その他: 回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	つまみから 体部の一部のみ残存
西660-6	52	6 F区	环 壁 (須底器)		外面: 回転ナデ?, 内面: ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	つまみから 体部の一部のみ残存
西660-7	52	5 E区	环 壁 (須底器)		天井部下半外面: ケズ リ, 天井部上半内面: ナデ, その他: 回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	淡青灰色	全体の約%残存
西660-8	52	5 G区	环 壁 (須底器)		内外面: 回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	淡灰色	天井部の一 部のみ残存
西660-9	52	6 G区	环 壁 (須底器)		天井部下半外面: ケズリ 大井部内面: ナデ, その他: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を 少々含む	良好	淡灰色	つまみから 体部の一部のみ残存
西660-10	52	5 G区	中 瓶? (須底器)		外面: 調整不明, 内面: 回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を含む	良好	外面: 黄灰色 内面: 淡褐色	全体の約%残存
西660-11	52	5 G区	环 壁 (須底器)		天井部下半外面: ケズ リ, 天井部上半内面: ナ デ, その他: 回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	暗青灰色	全体の約% 焼存, 烧部 に火印アリ
西660-12	52	6 F区	环 壁 (須底器)		外面: ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	淡黄灰色	つまみのみ 残存
西660-13	52	6 G区	环 壁 (須底器)		天井部外面: ヘラケズ リ, ナデ, 天井部内面: ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	外面: 明青灰色 内面: 黄灰色	天井部の一 部のみ残存
西660-14	52	6 F区 5 F区	环 壁 (須底器)	口径11.5 器高2.8	天井部外面: ケズリ, 回 転ナデ, 天井部内面: ナデ, その他: 回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	暗灰色	全体の約%残存
西660-15	52	4 G区	环 壁 (須底器)	口径(12.3)	天井部内面: ナデ, その 他: 回転ナデ	1mm以下の砂粒を 多く含む	良好	外面: 黄青灰色 内面: 黄灰色	全体の約% 欠損
西660-16	52	5 E区	环 壁 (須底器)	口径(16.4)	口縫部外面: 回転ナデ, ケズリ, その他: 回転ナ デ	0.5mm以下の砂粒を 多く含む	良好	明青灰色	口縫部の一 部のみ残存
西660-17	52		环 壁 (須底器)	口径(12.1)	天井部外面: 回転ヘラ ケズリ, その他: 回転ナ デ	0.5mm以下の砂粒を 少々含む	良好	外面: 淡褐色 内面: 黄灰色	天井部から 口縫部の一 部のみ残存
西660-18	52	6 F区	环 壁 (須底器)		口縫部外面: 回転ナデ, ヘラケズリの後ナデ, そ の他: 回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を 少々含む	良好	青灰色	II型窓底の一 部のみ残存
西660-19	52	5 D区	环 壁 (須底器)		内外面: 回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を 少々含む	良好	青灰色	II型窓底の 一部のみ残存
西660-20	52	5 D区	环 壁 (須底器)		内外面: 回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を 少々含む	良好	蒸灰色	口縫端部の 一部のみ残存

辨認番号	分類	出土地点	種別	法量 (cm)	手 法 の 特 徴	胎土	焼成	色 調	備考
西61-1	53	5 O 区	高台付环 (須恵器)	口径12.4 器高4.6 底径8.4	底部内面：糸切りの後ナ デ。その他：回転ナデ	1mm以下 の砂粒を 多く含む	良好	暗青灰色	全体の約1/3 欠損
西61-2	53	5 P 区	环身 (須恵器)	口径11.2 器高3.8	底部外面：糸切り、底部 内面：ナデ、その他：回 転ナデ	0.5mm以 下の砂粒 を含む	良好	青灰色	亞みアリ
西61-3	53	5 E 区	环身 (須恵器)		内外面：回転ナデ	0.5mm以 下の砂粒 を少々含む	良好	外面：黒灰色 内面：茶灰色	口縁端部の 一部のみ残 存
西61-4	53	6 P 区	环身 (須恵器)	口径15.3 器高1.8	底部外面：ナデ切りの後 ナデ。底部内面：回 転ナデ。ナデ。その他： 回転ナデ	1mm以下 の砂粒を 多く含む	良好	淡黄灰色	全体の約1/3 残存
西61-5	53	5 E 区	环身 (須恵器)	口径(17.7)	内外面：回転ナデ	1mm以下 の砂粒を 多く含む	良好	暗灰色	全体の約1/3 残存
西61-6	53	6 O 区	高台付环 (須恵器)	底径10.3	底部外面：回転へラ切 り、底部内面：ナデ、そ の他：回転ナデ	1mm以下 の砂粒を 少々含む	良好	淡灰白色	底部のみ残 存
西61-7	53	6 D 区	高台付环 (須恵器)	底径(8.8)	底部外面：ナデ、へラ切 り、底部内面：ナデ、同 転ナデ	1mm以下 の砂粒を 少々含む	良好	淡灰色	底部から体 部の一部残 存
西61-8	53	5 O 区	高台付环 (須恵器)	底径(8.3)	内外面：回転ナデ	0.5mm以 下の砂粒 を少々含む	良好	青灰色	底部の約1/3 残存
西61-9	53	5 P 区	高台付环 (須恵器)	底径(8.4)	底部外面：ナデ、その他 ：回転ナデ	0.5mm以 下の砂粒 を少々含む	良好	青灰色	底部の一部 のみ残存
西61-10	53	5 F 区	高台付环 (須恵器)	底径(8.8)	外面：回転ナデ、へラ切 り、内面：回転ナデ、ナ デ	0.5mm以 下の砂粒 を少々含む	良好	暗灰色	底部の約1/3 残存
西61-11	53	5 G 区	高台付环 (須恵器)	底径(9.2)	外面：回転ナデ、内面： ナデ	0.5mm以 下の砂粒 を少々含む	良好	淡青灰色	底部の約1/3 残存
西61-12	53	6 F 区	高台付环 (須恵器)	底径(7.2)	内外面：回転ナデ	0.5mm以 下の砂粒 を少々含む	良好	淡灰色	底部の一部 のみ残存
西61-13	53	6 D 区	高台付环 (須恵器)	底径(7.4)	内外面：回転ナデ	1mm以下 の砂粒を 少々含む	良好	外面：黒灰色 内面：淡灰色	底部の一部 のみ残存
西61-14	53	6 E 区	高台付环 (須恵器)	底径(8.3)	外面：回転ナデ、ナデ 内面：ナデ	0.5mm以 下の砂粒 を少々含む	良好	茶灰色	底部の一部 のみ残存
西61-15	53	5 F 区	高台付环 (須恵器)	底径(7.5)	外面：回転ナデ、静止糸 切り、内面：ナデ	0.5mm以 下の砂粒 を含む	良好	青灰色	底部のみ残 存
西61-16	53	6 G 区 6 F 区	高台付环 (須恵器)		外面：回転ナデ、内面： ナデ	0.5mm以 下の砂粒 を少々含む	良好	淡灰色	底部のみ残 存
西61-17	53	5 G 区	高台付环 (須恵器)		外面：回転ナデ、内面： ナデ	0.5mm以 下の砂粒 を少々含む	良好	青灰色	底部のみ残 存
西61-18	53	6 F 区	高台付环 (須恵器)		外面：回転ナデ、内面： ナデ	0.5mm以 下の砂粒 を少々含む	良好	淡灰色	底部のみ残 存。裏面端部 にヒラキアリ
西61-19	53	5 F 区	高台付环 (須恵器)	底径(9.2)	内外面：回転ナデ、ナデ	1mm以下 の砂粒を 少々含む	良好	青灰色	底部の一部 のみ残存
西61-20	53	6 E 区	高台付环 (須恵器)	底径(10.0)	外面：ナデ、内面：回転 ナデ、ナデ	1mm以下 の砂粒を 少々含む	良好	明青灰色	底部のみ残 存
西61-21	53	5 E 区	环身 (須恵器)		外面：糸切りの後ナデ、 ナデ、内面：回転ナデ	1mm以下 の砂粒を 少々含む	良好	淡灰色	底部の一部 のみ残存

排卵番号	年月日	出土地点	種別	法量(cm)	手法の特徴	胎上	映成	色調	備考
国62-1	54		高杯 (須恵器)	口径(15.6)	内外面：回転ナデ	1mm以下の砂粒を少々含む	良好	黒灰色	全体の約1/4残存
国62-2	54	6 D区	高杯 (須恵器)		杯部内面：ナデ。その他：回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	淡灰色	脚部から杯部の一部のみ残存
国62-3	54	6 F区	高杯 (須恵器)		杯部内面：ナデ。その他：回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	暗灰色	脚部から杯部の一部のみ残存
国62-4	54	6 G区	高杯 (須恵器)		杯部内面：ナデ。その他：回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	暗褐色	杯底底部の一部のみ残存
国62-5	54	7 D区	高杯 (須恵器)		内外面：回転ナデ？	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	素灰色	杯底部のみ残存
国62-6	54	8 E区	高杯 (須恵器)	底径(8.9)	内外面：回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	暗灰色	脚部下半のみ残存
国62-7	54	6 D区	高杯 (須恵器)	底径(8.1)	内外面：回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	暗灰色	脚部下半のみ残存
国62-8	54	4 F区	高杯 (須恵器)	底径(10.2)	内外面：回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	脚部下半の一部のみ残存
国63-1	55	5 F区	壺 (須恵器)	口径(18.9)	内外面：回転ナデ	1mm以下の砂粒を少々含む	良好	暗黄灰色	口縁部の約1/4残存
国63-2	55	6 F区	壺 (須恵器)	口径(15.3)	内外面：回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	黑褐色	口縁部の一部のみ残存
国63-3	54	6 C区	長颈壺 (須恵器)	肩部底大径(17.3)	肩部外面：回転ヘラケツリ。その他：回転ナデ	1mm以下の砂粒を少々含む	やや不良	淡黄茶灰色	底部、颈部欠損
国63-4	54	5 F区	壺 (須恵器)	底径(9.8) 肩部底大径(18.2)	底部外面：ヘラ切りの横擦りナデ。肩部底大径外：ヘラケツリ。肩部上円錐部：ヘラケツリの擦りナデ。その他：回転ナデ	1mm以下の砂粒を少々含む	良好	淡灰色	底部欠損から脚部の約1/4残存
国63-5	54		壺 (須恵器)	口径12.0 底径10.9 器高18.6	底部外面：ヘラ切りの横擦りナデ。肩部底大径外：ヘラケツリの擦りナデ？。その他：回転ナデ？	4mm以下の砂粒を多く含む	良好	青灰色	底部の約1/4残存
国63-6	54	6 F区 6 P区 6 G区	壺 (須恵器)	底径(10.9) 肩部底大径(21.5)	底部外面：ヘラ切りの横擦りナデ。肩部底大径外：ヘラケツリ。その他：回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	黒灰色	底部欠損、肩部から脚部の約1/4残存
国64-1	55	6 E区	壺 (須恵器)	底径(11.1)	底部外面：ヘラ切り。肩部下円錐外：ケズリ。その他：回転ナデ	1mm以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	底部から脚部の一部のみ残存
国64-2	55	5 P区 5 G区	壺 (須恵器)	底径(11.2)	底部外面：ヘラ切りの横擦りナデ。肩部：ヘラケツリの後回転ナデ。その他：回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	暗灰色	底部から脚部にかけて約1/4残存
国64-3	55		壺 (須恵器)		内外面：回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	黄茶灰色	天井部の一部のみ残存
国64-4	55	6 E区	壺 (須恵器)		内外面：回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	明灰色	肩部の一部のみ残存
国64-5	55	6 E区	壺 (須恵器)		内外面：回転ナデ、タタキ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	黄暗灰色	肩部の一部のみ残存
国64-6	55	6 F区	壺 (須恵器)		内外面：回転ナデ	1mm以下の砂粒を少々含む	良好	黄灰色	肩部の一部のみ残存
国64-7	55	5 E区	壺 (須恵器)	口径(11.4)	内外面：回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	暗青灰色	口縁部の約1/4残存

辨別番号	品目	出土地点	種別	法縫(cm)	手後の特徴	胎上	焼成	色調	備考
図64-8	55		壺 (須恵器)		内外面:回転ナデ	1mm以下の砂粒を少々含む	良好	外面:青灰色 内面:紫灰色	裏部の一部 分のみ焼存 割れ文アリ
図64-9	55	7 F区	壺 (須恵器)		内外面:	1mm以下の砂粒を少々含む	良好	青灰色	裏部の一部 分のみ焼存 割れ文アリ
図64-10	55	8 F区	壺 (須恵器)	底径(6.0)	底部外面:条切り、その他:回転ナデ	0.5mm以下の砂粒を少々含む	良好	外面:黒灰色 内面:暗灰色	底部から胴 部下半分の一 部のみ焼存
図64-11	56	8 E区	壺蓋 (須恵器)	口径10.1 高さ4.4	天井部外面:回転ヘラケ メリ、天井部内面:ナデ その他:回転ナデ	0.5mm以下 の砂粒を少々含む	良好	外面:青青灰色 内面:淡青灰色	全体の約1/3 欠損
図64-12	55	5 K区	壺蓋 (須恵器)	口径(11.5)	内外面:回転ナデ	0.5mm以下 の砂粒を少々含む	良好	外面:黒灰色 内面:淡青灰色	口縁部の一 部分のみ残存
図64-13	56	6 E区	壺 (須恵器)	口径7.3 高さ11.0	底部、胴部下外面:回 転ヘラケナリ、その他: 回転ナデ	1mm以下の 砂粒を少々含む	良好	外面:黒灰色 内面:灰色	全体の約1/3 欠損
図64-14	56	6 E区	壺 (須恵器)	口径7.1 高さ10.8	底部、胴部下外面:回 転ヘラケナリ、その他: 回転ナデ	1mm以下の 砂粒を少々含む	良好	外面:黒灰色 内面:暗灰色	全体の約1/3 欠損
図64-15	56	6 E区	壺 (須恵器)	口径10.0 高さ12.7	西面部:ヘラケナリ、 底部、東面部:ナデ その他:回転ナデ	1mm以下の 砂粒を少々含む	良好	淡灰色	全体の約1/3 欠損、底部 に凹凸の凹凸 アリ
図64-16	56	6 E区	壺 (須恵器)	口径9.0 高さ12.5	底部、胴部下外面:ケ メリ、その他:回転ナデ	1mm以下の 砂粒を少々含む	良好	青灰色	全体の約1/3 欠損
図64-17	55	6 G区	壺 (須恵器)	口径(9.2)	内外面:回転ナデ	1mm以下の 砂粒を少々含む	良好	淡灰色	口縁部の約 1/3残存
図64-18	55	6 E区	壺 (須恵器)		外面:回転ヘラケナリ、 回転ナデ、その他:回転 ナデ	0.5mm以 下的砂粒を少々含む	やや 不良	外面:黒灰色 内面:灰色	肩部から胴 部の約1/3残存
図64-19	55	6 G区	壺 (須恵器)	底径(4.7)	底部、胴部下外面:回 転ヘラケナリ、その他: 回転ナデ	0.5mm以 下的砂粒を少々含む	良好	淡灰色 内面:暗灰色	底部から胴 部の約1/3残存
図65-1	58	5 O区	子持壺 (須恵器)		外面:タテ方向のナデ、 内面:指壓痕ナデ	1mm以下 の砂粒を少々含む	良好	外面:黒灰色 内面:暗灰色	造し部分の 一部焼存
図65-2	58		子持壺 (須恵器)	子持壺底 大径(8.2)	腹壁内面:タキナ 子壺内面:ナデ、その他: 回転ナデ	1mm以下 の砂粒を少々含む	良好	外面:暗褐色 内面:黒灰色	子壺の内面 に子壺の腹壁 底部アリ
図65-3	58		子持壺 (須恵器)	子持壺底 大径(8.5)	腹壁内面:タキナ 子壺内面:ナデ、その他: 回転ナデ	1mm以下 の砂粒を少々含む	良好	淡白灰色	腹壁の内面 の一部と赤 褐色部を除く 子壺の内面 が焼成
図66-1	56	4 F区	壺 (須恵器)	口径(18.2)	腹部内面:タキナの後ナ デ消す、その他:回転ナ デ	0.5mm以 下的砂粒を 多く含む	良好	外面:黒青褐色 内面:黒灰色	口縁部から 底部の一部 分のみ焼存
図66-2	56	6 F区	壺 (須恵器)		胴部外面:タキナの後ナ デ消す、腹壁内面:タキ ナの後ナデ消す、その他: 回転ナデ	1mm以下 の砂粒を少々含む	良好	暗青灰色 内面:青灰色	胴部上半部 の一部分のみ 焼存
図66-3	56	6 F区	壺 (須恵器)		内外面:タキナ	0.5mm以 下的砂粒 を少々含む	良好	淡青灰色 内面:淡灰色	胴部の一部 分のみ焼存
図66-4	56	5 D区	壺 (須恵器)		内外面:回転ナデ	0.5mm以 下的砂粒 を少々含む	良好	青灰色 内面:紫灰色	内面の一部 分のみ焼存、 外面上に淡 褐色状アリ
図66-5	56	5 D区	壺 (須恵器)		内外面:回転ナデ	0.5mm以 下的砂粒 を少々含む	良好	青灰色	口縁部の 一部の外壁 部に淡褐色 部アリ
図66-6	56	6 D区	壺 (須恵器)		内外面:回転ナデ	0.5mm以 下的砂粒 を少々含む	良好	青灰色	裏部の一部 の外壁 部に淡褐色 部アリ

探査番号	笠置	出土地点	種別	法量(cm)	手法の特徴	粘土	施成	色調	備考
図66-7	57	5 G区	要 (須恵器)		内外面: 回転ナデ	0.5mm以下 の砂粒を少々含む	良好	外面: 青灰色 内面: 黄灰色	口輪部の一部 の外側のみ残存。 内側に複数の 凹凸アリ
図66-8	57	第10トレンチ	要 (須恵器)		内外面: 回転ナデ	0.5mm以下 の砂粒を少々含む	良好	外面: 黒灰色 内面: 黄灰色	口輪部の一部 の外側のみ残存。 内側に複数の 凹凸アリ
図66-9	57	8 E区	要 (須恵器)		内外面: 回転ナデ	0.5mm以下 の砂粒を少々含む	良好	外面: 淡青灰色 内面: 黄灰色	口輪部の一部 の外側のみ残存。 内側に複数の 凹凸アリ
図66-10	57	8 E区	要 (須恵器)		内外面: 回転ナデ	0.5mm以下 の砂粒を少々含む	良好	外面: 淡青灰色 内面: 黄灰色	口輪部の一部 の外側のみ残存。 内側に複数の 凹凸アリ
図66-11	57	5 P区 4 P区	要 (須恵器)		内外面: 回転ナデ	0.5mm以下 の砂粒を少々含む	良好	外面: 青灰色 内面: 黄灰色	輪部の一部 の外側が、 内側に複数の 凹凸アリ
図66-12	57	6 E区	要 (須恵器)		輪底外面: ハケ目、 刷毛 内面: タタキ。 その他: 回転ナデ	1mm以下 の砂粒を少々含む	良好	外面: 青灰色 内面: 黄灰色	輪部の一部 の外側が、 内側に複数の 凹凸アリ
図67-1	57	5 P区	要 (須恵器)		内外面: 回転ナデ	1mm以下 の砂粒を少々含む	良好	外面: 青灰色 内面: 黄灰色	口輪部の一部 の外側のみ残存。 内側に複数の 凹凸アリ
図67-2	57	5 P区	要 (須恵器)		内外面: 回転ナデ	0.5mm以下 の砂粒を少々含む	良好	外面: 青灰色 内面: 淡青灰色	輪部の一部 の外側が、 内側に複数の 凹凸アリ
図67-3	57	第6トレンチ	要 (須恵器)		内外面: 回転ナデ	1mm以下 の砂粒を少々含む	良好	輪青灰色	口輪部、 輪底 部の一部が、 内側に複数の 凹凸アリ
図67-4	57	6 P区	要 (須恵器)		内外面: 回転ナデ	0.5mm以下 の砂粒を少々含む	良好	青灰色	口輪部、 輪底 部の一部が、 内側に複数の 凹凸アリ
図67-5	57	6 P区	要 (須恵器)		内外面: 回転ナデ	0.5mm以下 の砂粒を少々含む	良好	青灰色	口輪部、 輪底 部の一部が、 内側に複数の 凹凸アリ
図67-6	57	6 P区	要 (須恵器)		内面: 回転ナデ、 外面: 指揮庄底の後回転ナデ	0.5mm以下 の砂粒を少々含む	良好	黒褐色	輪部の一部 の外側が、 内側に複数の 凹凸アリ
図67-7	58	7 C区	要 (須恵器)		内外面: 回転ナデ	0.5mm以下 の砂粒を少々含む	良好	輪青灰色	口輪部、 輪底 部の一部が、 内側に複数の 凹凸アリ
図68-1	58	4 P区	要 (須恵器)		輪底外面: ハケ目、 唐 内面: 刷毛底底の後回 転ナデ。 その他: 回転ナ デ	0.5mm以下 の砂粒を少々含む	良好	黒灰色	輪部、 輪底 部の一部が、 内側に複数の 凹凸アリ
図68-2	58	6 P区	环身 (土器器)	口径11.0 高さ3.3	内外面: 回転ナデ	2.5mm以 上の砂粒を少々含む	良好	淡赤褐色	全体の約1/2 残存、 赤色 変形アリ
図68-3	58	6 P区	环身 (土器器)	口径11.0 高さ3.2	内外面: 回転ナデ	1.5mm以 上の砂粒を少々含む	良好	淡赤褐色	全体の約1/2 残存
図68-4	58	6 P区	环身 (土器器)		内外面: 回転ナデ	0.5mm以 上の砂粒を少々含む	良好	赤茶色	口径部の一 部分のみ残 存
図68-5	58	6 P区	环身 (土器器)	底径5.2	底部外面: 回転糸切り、 その他: 回転ナデ	0.5mm以 上の砂粒を少々含む	良好	赤茶色	底部のみ残 存
図68-6	58	6 G区	要 (土器器)		内外面: ヨコナデ?	0.5mm以 上の砂粒を少々含む	良好	淡黄褐色	口径部の一 部のみ残存
図68-7	58		高杯 (土器器)		内外面: 手ゴネによるナ デ	0.5mm以 上の砂粒を少々含む	良好	淡赤茶色	脚部のみ残 存。 内側に 角形変形アリ

辨認番号	高さ mm	出土地点	種別	法量(cm)	手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
図68-8	58	6 G区	高杯 (上部部)		外面：調査不明	0.5mm以 下の砂粒 を少々含む	良好	淡黄色	底部底面のみ残存
図68-9	38	5 E区	高杯 (上前部)	底部5.7	底部：回転糸切り？その他：回転ナデ	0.5mm以 下の砂粒 を少々含む	良好	赤茶色	脚部のみ残存
図68-10	58	7 G区	壺? (上部質)		外面：調査不明、内面： ヘラケズリ	1mm以下 の砂粒を 少々含む	良好	赤茶褐色	全体の約1/2 残存
図68-11	58	7 G区	支脚? (上部質)		内外面：調査不明	1mm以下 の砂粒を 少々含む	良好	赤茶褐色	把手部分のみ残存
図69-1	50		耳環	最大径2.1					内側に銀全 體を施す。表面 は滑らかで 美しい。網 織
図70-1	50	6 F区	石鑿	全長 2.3 最大幅1.5					笠山着質

※ 法量中の( )は推定復元値である。(水井)

## VI 上沢Ⅰ遺跡

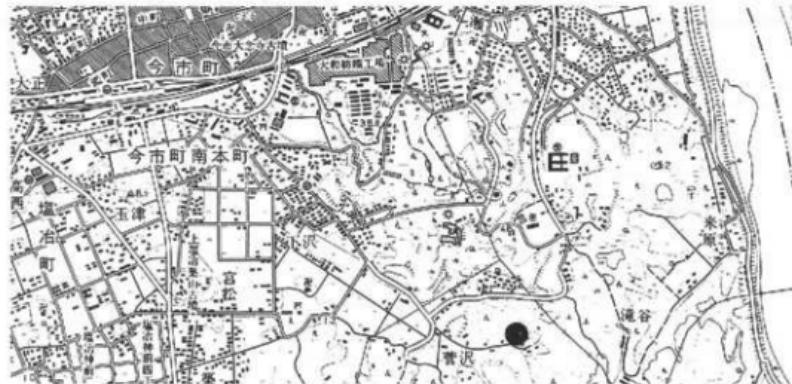
### 1. 遺跡の位置と調査の概要

平成5年度の斐伊川放水路発掘調査では、三田谷Ⅱ遺跡Ⅱ区等の全面発掘調査と並行し、斐伊川放水路開削予定地内の遺跡の範囲を確認するためのトレンチ調査を行なっている。トレンチ調査は、開削部全体の内、西側約2/3の地域を対象に、分布調査でマークした要注意箇所を、1~31の地点に分け、それぞれについて行った。このうち、30地点では、土坑1基が検出されたものの、遺物は見られなかった。しかし、付近の丘陵や、水田部でのトレンチも含め、他に遺構が見られなかつたことから、急速全面発掘を行うこととした。

土壤を検出した位置は、出雲市上塩治町2874番地にあたり、名称は、字名から上沢Ⅰ遺跡とした。調査面積は約40m<sup>2</sup>であった。

上沢Ⅰ遺跡は、標高約45mの丘陵上に位置し、遺跡南側の水田部からの比高差は約30mを測る。遺跡の北側には、近世に開削された間府川が見られるが、斐伊川と神戸川のちょうど中程に位置するため、付近に大きな河川は見られない。遺跡の位置する丘陵は、出雲市上塩治町菅沢から東へ延びる小丘陵で、大津町長者原で一旦途切れた後、南側の山塊に続く。

出雲市上塩治町は、神戸川に近い西方では、上塩治築山古墳・上塩治横穴群・三田谷遺跡などが知られており、遺跡の密度が高い地域である。しかし、東方にあたる上沢Ⅰ遺跡周辺では、奈良時代の(1)火葬墓と言われている菅沢古墓、同じく奈良時代の寺院跡と考えられる長者原廃寺以外の遺跡はほとんど知られていない。



第71図 上沢Ⅰ遺跡位置図 (1:25000, 国土地理院今市)



第72図 上沢I遺跡の位置とその周辺の遺跡 (1 : 10,000)

1. 上沢I遺跡 2. 菅沢古墳 3. 長者原廃寺

上沢I遺跡の在る丘陵は、東西に2つのピーカーを持ち、どちらも非常になだらかである。東側のピーカーでは、平坦面を中心にトレンチを設定し、採土の跡地と見られる加工面を検出したが、明確な遺構・遺物は確認できなかった。西側のピーカーは、なだらかな尾根が長く延びていたが、明確な平坦面は見られなかった。

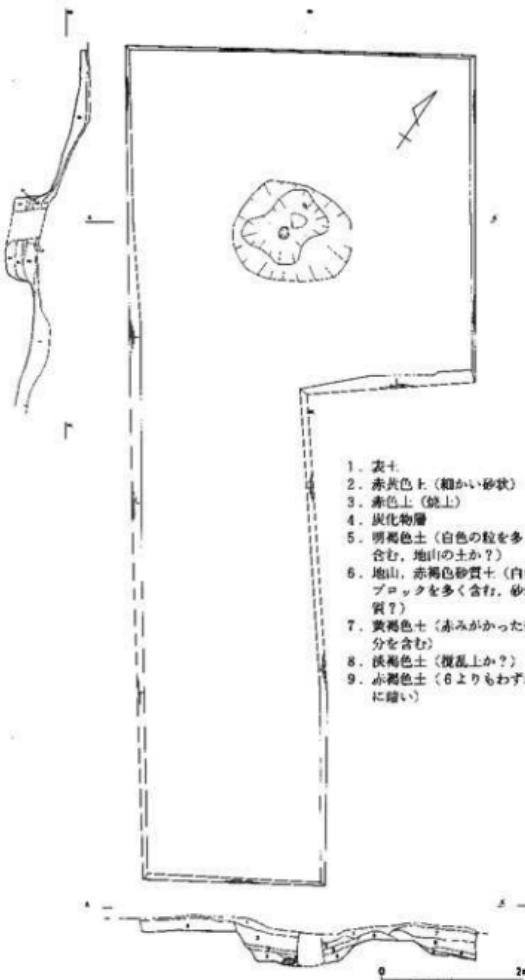
ピーカーを中心に四方にトレンチを設定し、掘削した結果、ピーカ付近南側斜面から、平面円形の土坑1基（SK01）を検出した。他のトレンチも含め、遺物が全く出土しなかった点、地表面の観察から、遺構が大きな広がりを持たないと考えられる点等から、単独の遺構と判断し、当該トレンチを約10m拡張し、全面発掘を行なった。

## 2. 遺構の概要

SK01は、平面長円形を呈し、長径約169cm、短径約138cm、深さ約68cmである。壁面は、焼けて赤変しており、埋土内には多量の炭が含まれていた。表土下



第73図 上沢I遺跡トレンチ配置図 (1 : 1,000)



第74図 上沢I遺跡SK01実測図（1:80）

であった可能性が考えられるが、周辺に遺物が見られないため、遺構の時期も含め、特定できない。

（林）

註1 池田義雄「背沢古窯」『島根県埋蔵文化財調査報告書第Ⅱ集』島根県教育委員会 昭和46年

註2 池田義雄「古代寺院跡」『出雲・上坂治地域を中心とする埋蔵文化財調査報告』島根県教育委員会昭和55年

層には、赤褐色砂質土と焼土と考えられる赤色土が堆積しており、その下に炭化物が見られる。炭化物層下層からは、拳大の礫を検出したが、床面からわずかに浮いており、火を受けた形跡も見られなかった。この礫は、地山崩落土と考えられる明褐色土に含まれており、上坑の機能焼失後に、上方から流れ込んだものと考えられる。

### 3. 小結

SK01は、多量の炭化物、焼土層を含む点、壁面が焼けている点などから、火を使用する施設と考えられる。また、床面と炭化物層の間に地山崩落土と思われる土が含まれている点や、焼上層が床面から離れた高い位置に有ることなどから、SK01の機能時には天井や壁面を構築していたものと思われる。SK01の性格については、炭焼き窯

## VII まとめ

以上、二つの遺跡の調査概要を述べてきたが、最後にこのうちの三田谷Ⅱ遺跡において認められた遺構・遺物について、その時期および特徴をまとめてみることにする。

### 1. 遺構について

まず、古墳（SX01）について整理しておこう。本古墳は三田谷の丘陵斜面に築かれた山寄せの古墳で、内部構造として横穴式石室を有する、径14m前後の円墳と推定される。石室の規模は、不明な部分が多いが、築造部が現在長2.2m、最大幅0.9mを測り、玄室部は築道側での幅が1.25mで、長さは3m前後と推定される。石室の構築方法は、築道部や残石をみると限らず少なくとも切石と自然石を併用して築造したものと考えられ、その積み方には切組積み手法の可能性もある。また、石室の平面形は、玄室床面の痕跡やその掘り方および残石の配置からすると、横長プランでしかも築道部側に向かって狭くなる羽子板状を呈していたと推定される。築造時期を出土遺物から検討すると、須恵器<sup>(1)</sup>环身片（第24図-1）は、山本清氏の須恵器編年では第3期の特徴をもち、また陶邑編年<sup>(2)</sup>に黒らせばTK43型式に比定できるようと思われる。これからすれば、古墳時代後期の、およそ6世紀後葉から7世紀初頭にかけた時期に築造されたものと推定できる。

この古墳を神戸川下流域に分布する他の横穴式石室を有する古墳と比較すると、石室の規模では刈山4・5号墳の横穴式石室に近いものがあり<sup>(3)</sup>、小規模な方にランクすることができる。また、石室の構築方法についてみると、上塙治築山古墳、放れ山古墳、刈山4号墳、同5号墳の石室<sup>(4)</sup>に類似していると考えられる。これら4古墳の石室形態は、近年の出雲西部における横穴式石室研究では3大別された中での2類にまとめられているが<sup>(5)</sup>、本古墳もこの種の一例として理解してよいであろう。羽子板状の平面プランも、この類型のうちの上塙治築山古墳、放れ山古墳の石室に共通するものである。

次に、土坑墓ほか（1区SX02～04・SK01～05、2区SX01）についてまとめてみよう。まず、これらが営なされた時期についてみると、2区のSX01を除けば伴出遺物である須恵器はいずれも山本清氏編年の4期以降に相当し、陶邑編年ではTK217型式以降の特徴を備えている。また、これを飛鳥編年に黒らせば、SX02が飛鳥Ⅰ、SX03が飛鳥Ⅱ、SX04が飛鳥ⅢないしⅣ、SK01が飛鳥Ⅱ、SK03が飛鳥ⅡないしⅢ、SK05が飛鳥Ⅱに比定できるようと思われる。<sup>(6)</sup>これを実年代でいえば、およそ7世紀代のうちに営なされたと推定されよう。

遺構の性格については、1区SX02～04は規模、形態、出土遺物から土坑墓と考えた。また、SK02・03も規模、形態、覆土などを総合的に考えるとその可能性があるようと思われる。これらは素掘りの簡素な形態のもので、規模も小さいのが特徴である。副葬品に関しても数点の須恵器

か、他にあっても刀子が伴う程度であり、その内容は極めて貧弱であるといえる（SK 02が上坑墓であるとすると湖葬高が伴わないものがあることになる）。また、これらの存在形態についてみると、検出時の遺構の配置状況をみる限りでは、常に存在するというよりも散在的といったほうが適切のようである。この時期のものと確認された上坑墓の調査例は少ないが、松江市古曾志遺跡群の例<sup>(7)</sup>や岡山県津市金井別所遺跡の例<sup>(8)</sup>でも単独ないしは数基で存在していることを考え合わせると、この時期の十坑墓の在り方としてはこうした状態がむしろ一般的であったのかもしれない。

1区SK 01と05は、方形形状の平面プランをとりながら部分的に溝やピットが伴うなど、先の上坑墓とは様相を異にするものである。出土遺物は、01では須恵器壺、高壺、壺があり、05では須恵器壺、壺が認められた。このような遺構はいまのところ他に例がみられず性格について特定することはできないが、特異な形態や遺物の器種構成などからすると、住居跡とも異なるようであり、何か特殊なものとして造られたとみるのが適当ではないだろうか。

なお、2区検出の土坑墓（SX 01）の場合は、松江市中竹矢遺跡Ⅳ区出土遺物や飯川郡斐川町西石橋遺跡土坑墓出土遺物<sup>(9)</sup>を参考にすると、伴出の土師器4点はおよそ12・13世紀ごろのものではなかろうかと推定される。この時期を前後する上坑墓の例をあげると、県下では松江市長峯遺跡土坑墓（10世紀前半）、同市上本庄町の場遺跡土坑墓（12世紀後半）、斐川郡斐川町西石橋遺跡土坑墓（12世紀）<sup>(10)</sup>が知られる程度である。時期が判然としないが、古代末期から中世にかけた時期の簡素な土坑墓の一例を加えたことになろう。

## 2. 遺物について

1区・2区からは、遺構には伴わないものの須恵器、土師器、陶磁器、石器、鐵刀片、耳環などの遺物が出土した。このうち最も量が多かったのは須恵器である。ここではこの須恵器について整理しておこう。

まず時期についてであるが、壺・高壺類では第39図1～5の壺蓋（高壺）、第40図1～26および第9図1～17の壺蓋身、第42図1～12の有蓋高壺は、山本清氏編年の中3期の段階に相当するものである。陶邑編年ではおよそTK 43型式のものに比定できることから、6世紀後葉から7世紀初頭の時期が考えられる。また第40図-27・28の壺身はTK 209・217型式に相当し、7世紀前半とみられる。第42図-16・17の高壺もおよそこの時期の中におさまるものと推定される。これ以外の須恵器は、山本清氏の編年ではすべて第4期以降の特徴を有するものである。出雲国庁跡編年<sup>(11)</sup>に照らしながら時期を推定すると、第41図-1および第60図-1・2の壺蓋は第1形式に相当し7世紀末以前、第41図-2～4の壺蓋は同2・3形式に相当し7世紀末から8世紀前半にかけて、第41図-10・11および第61図-2・3の壺は同第3・4形式に相当し8世紀でもやや後半代、第60図-18～20の壺蓋端部は同第

4形式以降とみられ8世紀後半以降、第61図-4の皿は第5形式に相当し9世紀初頭といった時期が考えられる。また、第61図-1の杯は8世紀後葉から9世紀初頭のものではなかろうかと推定される。<sup>40</sup>

壺・甕類については、第44図-1～6・9および第64図-15～17の直口壺、第44図-10の長頸壺、第45図-4～6の壺、第45図-11～13および第64図-11～14の有蓋短頸壺は、高広遺跡編年<sup>35</sup>を参考にすれば、同Ⅰ期AないしBに相当し、6世紀後葉から7世紀初頭の時期のものと考えられる。また、壺のうち第45図-8および第64図-10は、同Ⅲ期Bに相当し、7世紀末から8世紀前葉にかけてが考えられる。第46図-2・3の壺は、溶着した杯蓋が陶邑編年TK43型式併行期のものとみられ、6世紀後葉から7世紀初頭が考えられる。第46図-1の提瓶、第47図-2～5の甕、第65図-1～3の子持甕もこれとはほぼ同じ時期のものかと思われる。第63図-3の長頸壺は、7世紀代のものであろうか。第45図-14の有蓋壺および第63図-4～6の甕は、当地での類例があまり知られないが、およそ8・9世紀代のものではないかと推定される。<sup>41</sup>

こうしてみると、三田谷Ⅱ遺跡出土の須恵器は、6世紀後葉からおよそ8・9世紀代の時期のものが認められる。次に、これらの須恵器について気の付いた点を二、三挙げて終わりにしよう。

6世紀後葉から7世紀初頭にかけた須恵器について注目してみると、この時期のものには蓋杯はじめ高杯、甕、有蓋短頸壺、長頸壺、直口壺、子持壺、提瓶などがあり、器種が豊富である。これら一群の須恵器は、他の遺物に鉄刀片や耳環があることなどを考え合わせると、占墳の副葬品であった可能性が強いように思われる。

また、この時期の須恵器には出雲東部のそれとは趣を異にするものが含まれていて興味深いものがある。第39図-1～6の杯（高杯）蓋は、大井部外面にカキ目ないしはカキ目状の調整を意識的に施したものであるが（さらに1～5はこれに加えて「X」状のヘラ記号を刻んでいる）、このような例は出雲市・放れ山古墳、浜田市・沃田寺山古墳、同市・日脚下浦（御神幸地）遺跡の出土遺物にみられ、その分布はいまのところ出雲西部以西にあることが注意される。また、時期を定かにしがたいが、壺・甕類のなかにもこのような傾向がみられるのも特記すべきことであろう。すなわち、口縁部外面にヘラ状工具により連続刺突文を施したもの（第66図-8～10・12）、ないしは通常の波状文とともにこれを施したもの（第66図-11）が認められる点であるが、この種の刺突文もいまのところ益田市西平原熊跡群、鶴ノ鼻古墳群の出土遺物に例があるのみである。<sup>42</sup>

なお、およそ8・9世紀代のものとみられる須恵器には多くの壺類が認められた。この点も本遺跡性格を特徴づけるものといってよいように思われるが、これらの用途としては日常用の容器とは違う何か特殊なものが考えられるかもしれない。

（鳥谷・永井）

## 註

- (1) 山本清「山陰の須恵器」「山陰古墳文化の研究」所収 1971
- (2) 田辺昭三『陶邑古墳群』 1966
- (3) 因に、刈山古墳4号墳は玄室規模が3.23×1.32m, 5号墳が3.2×1.3mである。
- (4) 島根県教育委員会外「出雲・上陥治地域を中心とする埋蔵文化財調査報告」 1980。西尾良一「大社造と横穴式石室」『山本清先生喜寿記念論集山陰考古学の諸問題』 1986
- (5) 角田裕幸・西尾克巳「出雲西部における後期古墳文化の検討—横穴式石室の構造と変遷を中心として—『松江考古』第7号 1989
- (6) 実年代に関しては、陶邑編年T K217型式はおよそ7世紀前半が当たられ、また、飛鳥編年は、およそ飛鳥Ⅱが7世紀第2四半期、同Ⅲが7世紀第3四半期、同Ⅳが7世紀第4四半期に相当するとされている。特に飛鳥Ⅰについては山寺寺南門造塔地土層出土の遺物がその下限を示すものとして注目されている(川田寺造営641年)。深沢氏の教示による。
- (7) 島根県教育委員会『吉曾志遺跡群発掘調査報告書—初口ケ丘開墾地造成工事に伴う発掘調査』1989中に土坑墓の可能性のあるものとしてSK01・02が報告されている。
- (8) 津山市教育委員会外「金井別所遺跡—津山市埋蔵文化財発掘調査報告第25集」 1988
- (9) 島根県教育委員会『国道9号松江道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書X(中竹久遺跡)』 1992
- (10) 川原利人・桑原直治『島根県斐川町西石橋遺跡の中世墓』『古文化談叢』第18集 1987
- (11) 広江樹史「島根県における中世土器について」『松江考古』第8号 松江考古学講話会 1992
- (12) 計量には、この時期の土坑墓資料がまとめられている。
- (13) 松江市教育委員会『山雲廻廊発掘調査概要』 1971
- (14) 平安宮内裏外郭S X 4・S X 9や左近衛府S D 4出土の环に似ている。
- (15) 島根県教育委員会『高庄遺跡発掘調査報告書』
- (16) これまで山陰市内では上塙治町上塙治美山古墳、下古志町天神原古墳、馬木町小坂古墳出土のものの3例がある。近年の柳浦俊一氏の研究に照らせば、第65図-2の小壺の接合方法はa手法に近いものがある。a手法はII期(陶邑編年T K10新・TK43)新には少なくなると指摘されている。同氏「島根・鳥取県出土子持壺集成」『島根考古学会誌』第10集 1993。
- (17) 益田市石見空港関連の調査では、第63図-4に似た壺が9世紀代のものとして報告されている(島根県教育委員会『石見空港建設予定地内遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書』 1992)。また、鷲崎彰一編『世界陶磁全集2 日本古代』(小学館 1979) や、田中琢外編『日本陶磁全集4 須恵器』(中央公論社) を参考にすると、有蓋壺第15図-14は大阪府岸和田市陶邑43号窯跡出土の短頸壺(8世紀)、愛知県二好町黒瀬3号窯跡出土の三耳壺(8世紀)、愛知県日進町岩崎41号窯出土の壺(8世紀)、福井県出土の四耳壺(8世紀)に、第63図-4は茨城県那珂町出土の長頸壺(9世紀)、第63図-5は小松市一貫山2号窯跡出土の広口壺(8世紀)、和泉市陶邑光明池60号窯跡出土の台付広口壺(8世紀)、第63図-6は陶邑編年MT21型式(8世紀前葉)の長頸壺の体部に似たものがある。
- (18) 計量および内田作雄「出雲刈山4号墳と攝入須恵器『ふいーるど・のーと』№0.6 本庄考古学研究室 1984
- (19) 島根県教育委員会『日御遺跡一口脚住宅開地予定地内発掘調査報告書』 1985
- (20) 田中義昭「益田市西平原窯跡群の意義について」「ふいーるど・のーと」№0.3 本庄考古学研究室 1982
- (21) 益田市教育委員会木原光氏の教示による。

# 三田谷Ⅱ遺跡出土土器の蛍光X線分析

奈良教育大学 三辻 利一

## 1)はじめに

米子市の新山山田遺跡の周辺から出土する須恵器を多面分析したところ、古式須恵器では大阪陶邑産と推定されたものがほとんどであり、古墳時代後期では地元、大井窯群の製品が大半を占め、奈良時代に入ると古曾志窯群のものと思われる須恵器が数多く検出され、須恵器の供給体制に変遷があることが明らかになった。同様のことは広島県三次市周辺の遺跡出土須恵器についても認められた。すなわち、5～6世紀代の須恵器のほとんどは大阪陶邑産と推定されており、8世紀代に入ると、大阪陶邑産の須恵器はほとんど検出されず、逆に、地元産と推定される須恵器がほとんどであった。いま、このように須恵器の供給体制の変遷についてのデータが各地で集積されつつある。

このような研究の一環として、三田谷Ⅱ遺跡出土須恵器を蛍光X線分析した結果について報告する。

## 2)分析方法と分析結果

須恵器試料片はすべて、表面を研磨して灰釉等の付着物を除去したのち、タングステンカーバイド製乳鉢の中で100メッシュ以下に粉碎された。粉末試料は15トンの圧力を加えてプレスし、内径20mm、厚さ3～5mmの鋳型試料を作成して蛍光X線分析を行なった。波長分散型のスペクトロメーター（理学電機製3270型機）を使用した。

標準試料には岩石標準試料JG-1を使用した。分析値はJG-1による標準化値で表示された。

表1には分析データがまとめられている。3つの母集団について産地推定を試みた。地元、島根県東部地域の代表として池ノ奥窯群、島根県西部地域の代表として本片子窯、それに、6世紀代後半の須恵器も試料中に含まれるところから、大阪陶邑群を選び出した。各母集団の重心からのマハラノビスの汎距離との二乗値はK, Ca, Rb, Srの4因子を使って計算された。その結果も表1に示されている。5%の危険率をかけたHotellingの $T^2$ 検定により、帰属条件を $D^2(X) \leq 10$ とした。 $(X)$ は母集団名である。この帰属条件を入れて産地推定した結果も表1にまとめてある。地元、大井群産と推定されたものはNo. 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 14, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 25, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34の30点である。このうち、No. 5は $D^2$ (池ノ奥)=12であるが、帰属する可能性はあるとして、(?)を付して大井群産と推定した。また、No. 13は大阪陶邑産と推定された。No. 15, 24, 26の3点はこれら母集団には帰属せず、産地不明となった。

以上の産地推定の結果は定性的ではあるが、図1のRb-Sr分布図で容易に理解されよう。

標的番号	種別	年代	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Ka	D(地/海)	D(本片子)	D(地輪型)	測定場所	
No 1	須恵器	6C後～7C初	0.392	0.141	2.10	0.961	0.465	0.201	9.3	108	17	大井群	
2	須恵器	6C後～7C初	0.427	0.156	2.29	0.472	0.527	0.219	3.4	151	24	大井群	
3	42-2	須恵器	6C後～7C初	0.449	0.190	1.70	0.559	0.586	0.244	4.6	118	26	大井群
4	42-10	須恵器	6C後～7C初	0.444	0.132	1.33	0.253	0.521	0.210	6.5	137	21	大井群
5	42-11	須恵器	6C後～7C初	0.348	0.157	3.00	0.415	0.459	0.168	12	115	21	大井群(?)
6	42-8	須恵器	6C後～7C初	0.669	0.164	1.95	0.570	0.519	0.270	2.9	100	36	大井群
7	43-8	須恵器	6C後～7C初	0.439	0.178	1.25	0.470	0.638	0.247	7.4	313	48	大井群
8	42-4	須恵器	6C後～7C初	0.433	0.182	2.11	0.554	0.517	0.205	5.3	91	16	大井群
9	42-12	須恵器	6C後～7C初	0.518	0.128	1.72	0.694	0.487	0.230	8.9	58	11	大井群
10	43-14	須恵器	6C後～7C初	0.492	0.180	1.92	0.578	0.535	0.270	1.8	120	18	大井群
11	35-2	須恵器	7C代	0.402	0.132	1.76	0.480	0.513	0.177	9.2	180	25	大井群
12	32-12	須恵器	7C代	0.483	0.154	1.42	0.561	0.547	0.269	2.4	147	22	大井群
13	45-11	須恵器	6C後～7C初	0.388	0.062	2.54	0.458	0.217	0.147	50	35	1.5	大井群(?)
14	45-13	須恵器	6C後～7C初	0.481	0.132	1.70	0.642	0.489	0.230	8.7	63	11	大井群
15	45-14	須恵器	8C代	0.616	0.630	1.99	0.786	0.187	0.075	54	48	22	不確
16	44-1	須恵器	6C後～7C初	0.469	0.180	1.95	0.628	0.590	0.311	3.8	154	25	大井群
17	44-2	須恵器	6C後～7C初	0.373	0.210	2.49	0.428	0.586	0.210	6.2	211	39	大井群
18	46-3	須恵器	6C後～7C初	0.529	0.196	1.62	0.715	0.510	0.271	9.1	90	12	大井群
19	46-1	須恵器	6C後～7C初	0.661	0.159	1.73	0.611	0.509	0.243	6.8	77	13	大井群
20	47-4	須恵器	不明	0.422	0.176	2.47	0.508	0.528	0.215	4.0	127	21	大井群
21	59-10	須恵器	6C後～7C初	0.580	0.179	1.80	0.664	0.530	0.402	1.9	78	13	大井群
22	59-13	須恵器	6C後～7C初	0.513	0.140	1.42	0.680	0.544	0.262	5.8	115	18	大井群
23	60-1	須恵器	7C代	0.441	0.173	1.65	0.522	0.564	0.221	3.5	196	26	大井群
24	61-1	須恵器	7-8C代	0.288	0.237	4.74	0.218	0.340	0.215	33	178	28	不確
25	61-5	須恵器	7-8C代	0.520	0.218	1.69	0.631	0.571	0.286	3.6	83	15	大井群
26	63-5	須恵器	8-9C代	0.658	0.137	1.51	0.239	0.505	0.287	140	463	74	不確
27	63-6	須恵器	8-9C代	0.465	0.176	1.94	0.586	0.493	0.249	3.0	72	11	大井群
28	63-4	須恵器	8-9C代	0.583	0.100	1.35	0.671	0.408	0.193	9.2	35	8.3	大井群
29	64-6	須恵器	不明	0.574	0.103	1.33	0.690	0.434	0.200	7.5	46	10	大井群
30	66-12	須恵器	不明	0.503	0.179	1.49	0.629	0.594	0.335	5.0	148	24	大井群
31	66-5	須恵器	不明	0.549	0.179	1.83	0.668	0.523	0.331	2.2	69	12	大井群
32	67-3	須恵器	不明	0.430	0.188	2.73	0.561	0.541	0.209	2.6	138	22	大井群
33	67-5	須恵器	不明	0.462	0.170	2.23	0.544	0.536	0.241	2.2	125	19	大井群
34	66-3	須恵器	不明	0.506	0.221	1.40	0.595	0.603	0.339	2.7	139	23	大井群
35	丸	近代	0.372	0.041	2.72	0.396	0.158	0.061					
36	土器	土器	0.472	0.114	1.05	0.556	1.96	0.372					
37	土器	土器	0.573	0.290	1.32	0.693	0.782	0.306					
38	七輪器	赤色陶器	0.569	0.434	1.61	0.649	1.04	0.296					
39	七輪器	七輪器	0.571	0.448	1.57	0.558	1.12	0.210					
40	七輪器	七輪器	0.547	0.272	1.40	0.691	0.890	0.258					

表1 三田谷Ⅲ遺跡出土土器の分析データ

6～7世紀代初と年代列定された須恵器の中に1点、大阪陶邑産が含まれているが、他はすべて地元、大井窯群産であった。したがって、この時期に大井窯群は活発に須恵器生産を行ったことを物語る。8・9世紀代の須恵器の中にも大井群産は含まれる。これに対して産地不明となったのはいずれも、8世紀代、8～9世紀代の須恵器である点も注目される。3点の不明品のうち、Na 24, 26は同じ地域で作られた須恵器の可能性をもつが、Na 15は全く別の地域の窯の製品である。

なお、土師器については表1からもわかるように、今回分析した土師器胎土は類似しており、同じところで作られたものである可能性が高いという程度の情報にとどめておく。近世の瓦の胎土とは全く異なっており、目下のところ、関連がないという他はない。

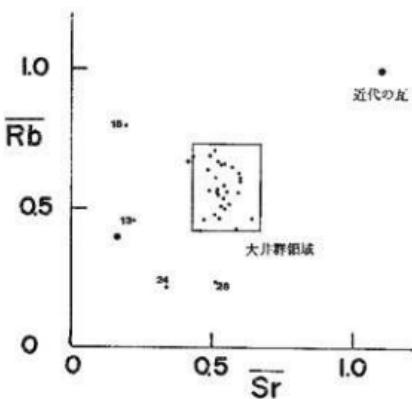
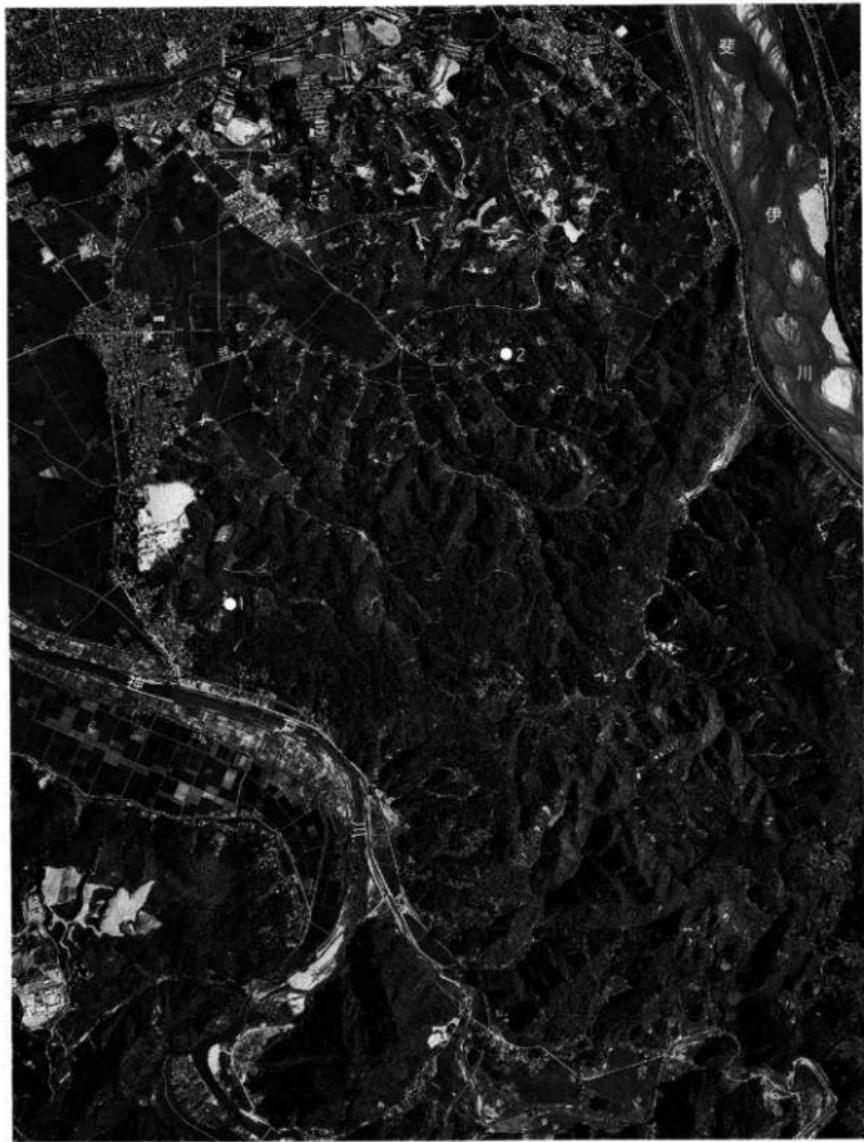


図1 三田谷II遺跡出土須恵器のRb-Sr分布図



# 図 版





斐伊川放水路開削部予定地とその周辺の空中写真（1 三田谷Ⅱ遺跡、2 上沢Ⅰ遺跡）

図版 2



三田谷全景（南西から）



同 上（北東から）



三田谷Ⅱ遺跡調査前全景（西から）



試掘調査時の三田谷Ⅱ遺跡（北から）

図版4



三田谷Ⅱ遺跡1区調査後全景（北東から）



同上（西から）



1区SX01検出状況（北西から）

図版 6



1区 SX01 検出状況（北東から）



同上（南西から）



1区SX01発掘状況（北東から）



同上（南西から）

図版 8



1区 SX01 石室検出状況（北東から）



同上（南から）



1区SX01 狹道部集石状況（北西から）

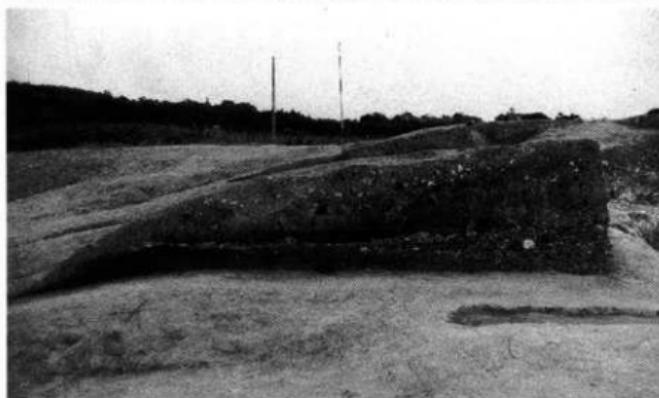


同上（南東から）



1区SX01 掘出状況（北西から）

図版10





1区SX01  
墳丘土層  
Aライン  
(北東から)



同上Cライン  
(南東から)



同上Dライン  
(南西から)



I区SX01玄室部掘り方検出状況（北東から）



同上玄室部石材除去作業



1区SX01  
玄室部掘り方  
検出状況  
(南東から)



同上  
(北東から)



同上左側面  
掘り込み状況  
(北から)

図版14



1区SX01  
狭道部側壁  
検出状況  
(北西から)



同上右側壁  
(北東から)



同上左側壁  
(南西から)



1区SX01  
表道部検出状況  
(北西から)



同上（東から）



同上（南から）

図版16



1区SX01 磁道部右側壁石 b 加工痕（北から）



同左正面（北東から）



同上右側壁石 a 加工痕（北から）



同左正面（北東から）



同上右側壁石 c 裏面加工痕（西から）



同左上面（上方から）



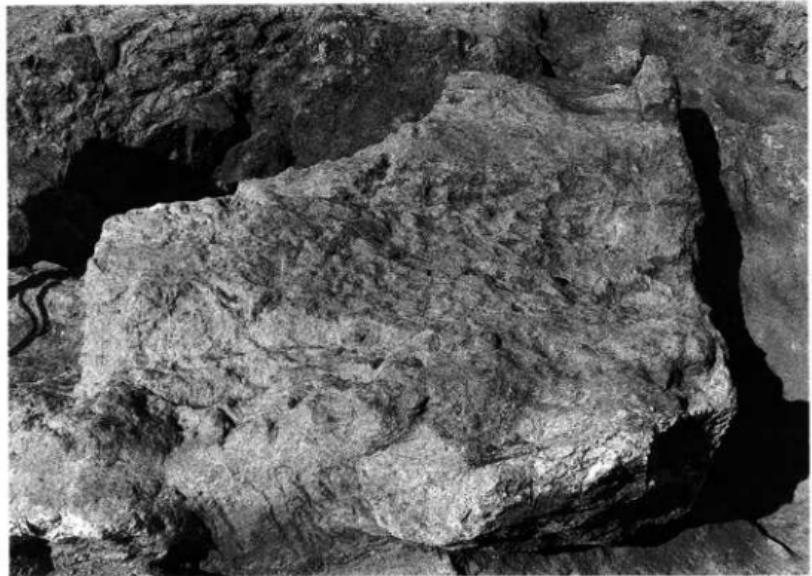
図版18



1区SX01玄室部床面完掘状況（北西から）



同上（南東から）



1区SX01玄室部床面完掘状況（北東から）



同上（南西から）



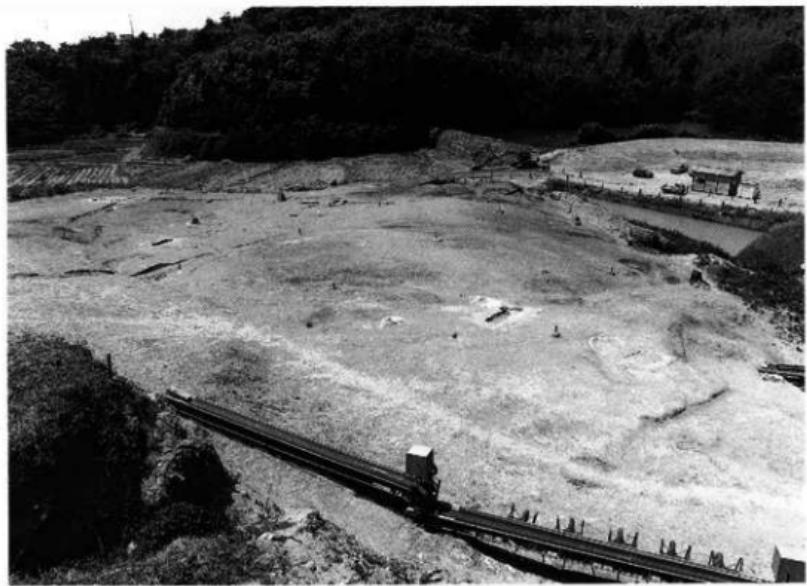
1区土坑墓・土坑群全景（北東から）。



同上近景（南から）

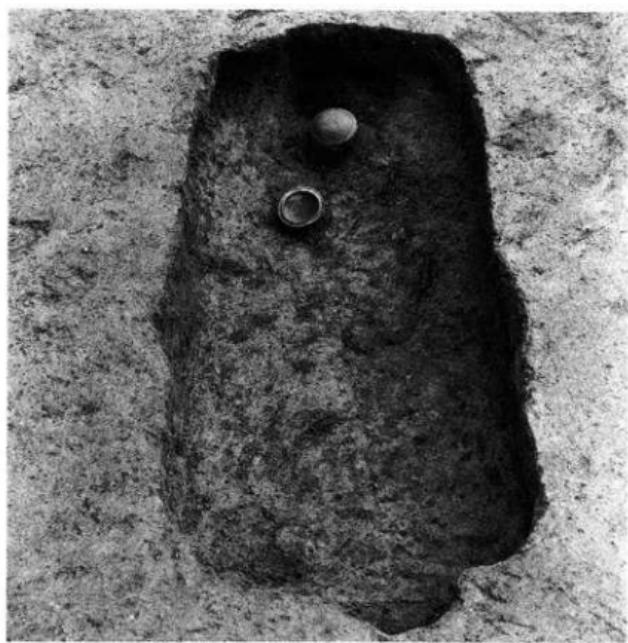


1区土坑墓・土坑群近景（南西から）

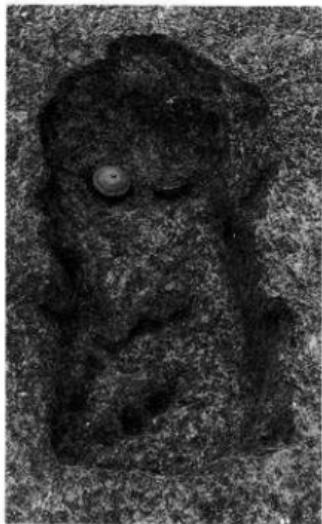


同上（南東から）

図版22



1区SX02検出状況（北から）



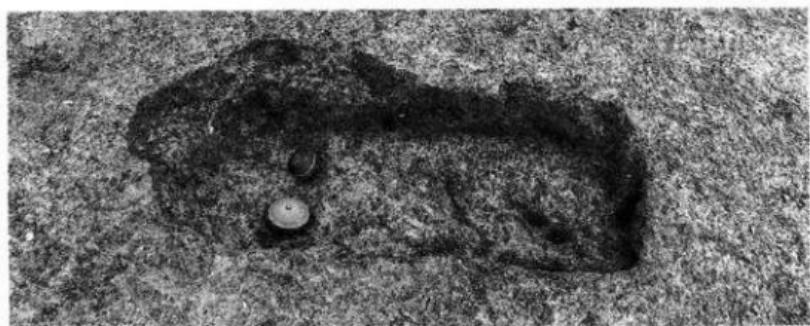
1区SX03検出状況（西から）



1区SX04検出状況（南から）



1区SX02検出状況（西から）



1区SX03検出状況（北から）



1区SX04検出状況（東から）